

部分的所得不能ノ場合ニ全額年金ノ二割以前ハ一割五分若クハ夫
レ以下ノ年金ヲ與フヘキ事定メラレタル場合ニハ下級行政官廳ノ認
許ヲ得テ同業組合ハ賠償受取權利者ニ其ノ請求ニ基キテ相應額ノ元
本濟清ヲナス事ヲ得。

(2)死亡ノ場合ニハ賠償トシテ次ノモノ給付セララル。

(一)上掲ノ賠償金計算ノ場合ニ適用セラレタル一年労働收益ノ十五
分ノ一ニ相當スル死亡手當金但シ其最低額ヲ五〇馬克トス。

(二)一年労働收益ノ若干部分ニ相當スル遺族年金(五八七條)。

遺族カ寡婦又ハ遺兒ナル場合ニハ寡婦ニ對シテハ其ノ死亡若クハ
再婚マテ又遺兒ニ對シテハ一名毎ニ年齢十五歳ヲ滿了スル迄夫々一
年労働收益ノ五分ノ一ヲ支給ス。新法ニヨレノ私生兒ニ對シテハ父
カ法律上扶養義務者タル時ニ限ルモノトス(五八八條)寡婦再婚スル

時ハ一年労働收益ノ五分ノ三ヲ一時金トシテ支給セララル(五八九條)。
死亡シタル婦人被保險者カ傷害發生ノ際已ニ結婚シ居リタル場合ニ
若シソノ配偶者ニ所得能力アラサルカ爲メ妻ノ所得カ家族ノ生計ヲ
全部又ハ大部分供給シ居リタル時ハ窮乏ノ除カル迄鰥夫ハ妻ノ一
年労働收益ノ五分ノ一ヲ又遺兒ハ一名毎ニ年齢十五歳ヲ滿了スル迄
同様五分ノ一ノ年金ヲ支給セララル(五九二條)。

死亡者カ其ノ労働所得ニヨリテ扶養シ來リタル尊屬親アル場合ニ
ハ其窮乏状態ノ繼續中ニ限リ合シテ五分ノ一ニ相當スル額ノ年金ヲ
支給セララル。父母ナキ孫ニ關シテモ亦同様ナリ(五九三條、五九四條)。
遺族年金ハ合シテ一年労働收益ノ五分ノ三ヲ超過スルヲ得ス。超
過シタル場合ニハ此ノ限度マテ之ヲ短縮スルモノトス(五九五條前段)。
同業組合ハ金錢給付ニ代ルニ病院ニ於ケル無料治療及ヒ看護(入院

治療ヲ以テスル事ヲ得。此ノ場合被害者カ自己ノ家計ヲ有シ或ハ家族ノ一員トシテ家計ヲ助クル時ニハ其ノ同意ヲ得ルヲ要ス。但シ負傷ノ種類ニヨリ自宅療養ヲ許ササル場合醫師ノ意見ニ於テ繼續的注意ヲ必要トスル場合若クハ負傷者カ醫師ノ指圖ニ屢々違背シタル場合ニ於テハ此ノ承諾ヲ得ルヲ要セス。自宅治療モ亦疾病保險ニ於ケルト同シク今日ニ於テハ可能ナリトス。

負傷者カ病院ニテ治療セラルヘキ場合ニハ家族ハ年金ノ請求權ヲ有ス。但シ被害者死亡シタル時ハ遺族年金ヲ請求シ得ル場合ニ限ル〔家族年金(五九八條)。同業組合ハ一般ニ定款ニヨリ又ハ定款ニ依ラス必要ニ應シテ入院シタル負傷者並ニ其ノ家族ニ特別ノ救濟ヲ與フル事ヲ得(六〇二條)〕。

組合ノ理事ハ年金受領者ニ其ノ申請ニ依リ年金ニ代ルニ組合費用

ヲ以テ癡疾院又ハ第三者ノ營ム營造物ニ收容スル事ヲ得(六〇七條)。曩ニモ述ヘタルカ如ク外國人モ亦傷害保險義務者タル事アリ。若シ彼等カ獨逸帝國外ニ退去スル時ハ三年分ノ年給ヲ請求シテ年金關係ヲ消滅セシムル事ヲ得(六一七條)。外國人ノ遺族ハ國法上ノ合意アル場合ヲ除キ傷害當時常ニ國內ニ滞在セサリシ場合ニハ年金請求權ヲ有セス(五九六條)。

被害者ノ事情ニ變化ヲ生シタル場合ニハ年金請求權ハ一時休止スル事ヲ得。

自ラ故意ニ傷害ノ結果ヲ惹起シタル場合ニハ被害者及ヒ遺族ハ年金請求權ヲ有セス(五五六條)。被害者カ刑事裁判ニヨリテ判決確定シタル重罪ヲ犯シ若クハ故意ニ輕罪ヲ行ヘル際自ラ招致シタル傷害ニ對シテハ請求權ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル事ヲ得(五五七條)。後者ノ

場合ニアリテハ被害者ノ家族カ國內ニ住居シ被害者死亡ノ際年金請求權ヲ有シ得ヘカリシ時ニ限り年金ハ全部又ハ一部家族ニ給與スル事ヲ得(五五七條第三項)。

労働者ノ傷害カ事業主若クハ其代理人ノ故意又ハ重過失ニヨリテ發生シタル場合ニハ後者ハ傷害保険ノ擔保機關ニ對シテ賠償責任ヲ有ス。但シ此ノ責任ハ刑事裁判ニヨリテ故意又ハ過失アリシ事カ確定セラレタル事ヲ前提トス。此ノ責任ノ結果ヲ保護スル爲メ私立會社又ハ同業組合ノ特別制度ニヨリテ責任保險(Haftpflichtversicherung)ナルモノ生スルニ至ルヘシ。

第四節 財源ノ調達

傷害保険ニ對スル財源ノ調達ハ全然企業家ニヨリテ行ハルル事ハ

既ニ繰リ返シ論述シタリ。更ニ表面企業者カ支拂フニモ拘ラス眞ノ保険料支拂人ハ労働者ナル事ノ理論上ノ根據ト之カ立證トハ之亦曩ニ論述シタル所ナリ。

其ノ技術的方法ハ私立保険ノ計算家カ當然スタアルヘシト信スル要求ニ適應セサルカ故ニ傷害保険ノ技術上ノ根據ニ對シテハ激烈ナル論難ナキニアラサルナリ。

(一) 調達ノ方法ハ大體ニ於テ全ク原始的ナリ。即チ賦課式ヲ採用シタリ。換言スレハ支出セラレタル賠償額ハ管理費及ヒ豫備基金ト共ニ事後ニ於テ普通其ノ支拂フ賃銀額並ニ事業ノ危険率ヲ標準トシテ企業者ニ賦課セラルルナリ。此種ノ方法ハ私立傷害保険ニアリテハ全然非難セラルルニモ拘ラス世人ハ社會保險ノ場合ニ於ケル辯護ノ根據ヲ求メテ曰ク「獨逸ノ工業ハ偉大ナル資本力ヲ意味スルカ故ニ人

類ノ豫見ノ及フ限度ニ於テハ此種ノ財力ヲ無視スルカ如キ事思ヒモ及ハサルナリ。況ンヤ帝國カ責務ノ實行ニ關シテ保證ヲ爲スニ於テオヤト。

賦課式保險料制度ニ於テハ最初ハ只タ比較的小額ノ掛金ヲ爲シ次ニハ非常ノ速度ニテ後ニハ除々ニ高マリツツ遂ニハ永續狀態ニ達スヘキモノナルカ故ニ(獨逸ノ傷害保險ニアリテハ一九三〇回位ニ及フヘシ)法律ハ豫備金積立ノ爲メニスル割増金ノ給付ニ關スル正確ナル規定ヲ設ケテ純粹ノ賦課式ヲ一變シタリ。斯ノ如クシテ漸次保險數學ニヨリテ正當ナリト認メラレタル自然保險料制度ニ達セントシツツアリ(七三一條第一項、七四二條、七四三條)

(二)地下工事組合ニアリテハ自然保險制度最初ヨリ採用セラル。即チ各計算年度經過毎ニ確定セラレ且ツ次第ニ昂進スル掛金ニヨリテ

前年度ニ組合ノ負擔トナレル年金ノ資本價值(管理費其他ヲ包含ス)ヲ填補スヘキモノトス(七三一條第二項)。

(三)掛金調達ノ第三方法即チ平均保險料主義ハ十二ノ土木建築業組合ノ支部及ヒ自己工事者ニ對スル地下工事組合ノ採用スル處ナリ。即チ企業者ハ少クトモ六日以上繼續スル建築作業ヲ爲スニ際シテハ三年毎ニ更改スル保險率ニ依リテ豫メ算定セラレタル保險料ヲ支拂フヲ要ス。之レ以テ平均ニ豫期セラルル傷害ノ資本價值ヲ調達セントスルナリ。

同様ノ平均保險料制度ハ海事業組合ノ中小企業的航海業ノ爲メニ設ケラレタル支部ニ於テモ採用セラル。乗用動物或ハ船車ノ操縦ヲ保險スル同業組合ニ於テモ亦然リ(七三二條)。

(四)更ニ注意スヘキ例外ハ建築業組合ノ支部ニシテ作業日數六日ヲ

超エサル勞作ヲ營ム場合ニ存ス。此場合ニ要スル財源ハ當該同業組合所屬ノ市町村ノ出捐ニヨリテ調達セラレ其ノ人口數ニ應シテ年々賦課セラレルナリ。市町村ニ代ハルニ大規模ノ市町村組合ヲ以テスル事アリ。此ノ場合全體カ保險費用ヲ負擔スルカ如ク帝國聯邦若クハ公共團體ニ屬スル傷害保險ノ費用ハ其ノ通常經費目ヨリ調達セラレ。

企業者ノ掛金額ハ通常ノ賦課式ノ場合ニハ企業傷害危險ノ程度ニヨリテ定マル。

計算ヲ可能ナラシメンカ爲メ狹小ナル企業範圍ニ關セサル限り同業組合員ハ一定期間内ニ組合理事者ニ同年度内ニ企業ニ從事セル人員及ヒ其ノ俸給並ニ賃銀ヲ記載シタル證書ヲ呈出スルヲ要ス。

農業ニアリテハ掛金ノ賦課ハ定款ノ規定ニ從ヒテ種々ノ主義ニヨ

リテ行ハル。即チ勞働ノ概算的平均需要、企業従事者ノ報酬、危險等級ニヨル事アリ。又一定ノ前提ノ下ニアリテハ國家又ハ公共團體ノ直接税ノ割増金ニヨリテ行ハル事アリ。更ニ定款ハ掛金額算定、ソキ尙別ノ方法ヲ定ムル事ヲ得。例ヘハ地租ヲ參酌セル土地面積、純益及ヒ耕作方法等ノ如シ。航海船ノ掛金標準トシテハ平均必要船員數航海ト關連セル税率ニ對シテハ勞働日數等用ヒラル。

工業ノ掛金ヲ定ムルニハ更ニ危險等級ノ要素ヲ加フルヲ常トス。同業組合ニ屬スル企業ハ組合會議ニヨリテ其ノ企業ノ傷害危險ノ程度ニヨリテ夫々危險等級ニ編入セラレ。各種等級ノ給付スヘキ掛金ノ額ニ關シテハ危險率ヲ規定シ少クトモ五年毎ニ改正ス。故ニ企業ノ大小以外ニ危險ノ程度モ亦標準ノ一タルナリ。反之農業ニアリテハ傷害危險ハ要素タラサルヲ常トス。

第五節 事業ノ管理

事業管理ノ最重要ナル點ヲ叙述スルニ當リテハ範圍ヲ工業的同業組合ニ局限スルヲ以テ足ル。

一、同業組合カ法律ニヨリテ權利能力ヲ認メラレタルハ既ニ述ヘタリ。從ツテ義務ニ對シテハ組合財産ノミ責在ヲ負フ。

保險義務アル企業ノ經營者ハ此ノ爲メニ報告義務ヲ有ス。同業組合ノ組合員ハ指定セラレタル種類ノ企業ヲ營ミ管轄地區内ニ居住スル企業ノ經營者ナリ。報告義務ヲ怠リタル場合ニ於テモ組合員タル資格ハ事業ノ開始ト共ニ發生ス。組合員カ公權ヲ有スル時ハ表決權ヲ有ス。殊ニ組合員ハ内部管理及ヒ業務執行ヲ自己ノ定メタル定款ニ從ツテ獨立ニ定ムル事ヲ得。同業組合ノ最高意思機關ハ代表者ノ

組織スル組合會議ナリ。名譽職タル理事ハ執行機關トス。名譽職タリト雖モ理事者ハ族費其他ノ巨額ノ賠償ヲ受クルモノトス。各企業ノ所屬組合ヲ指定スルハ保險局ノ職ナリ。所屬決定シタル時ハ各組合員ハ企業目錄(同業組合簿)ニ登録スヘシ。必要起リタル場合ニハ他ノ目錄ニ轉載スルヲ得ル爲メ企業ノ變更ハ常ニ報告スルヲ要ス。

曩ニ述ヘタルカ如ク同業組合内ニハ定款ニ從ヒテ支部ヲ設クルヲ得。實際ニ徵スルニ支部ノ設置セララル事普通ナリ。一九一〇年ニハ約九百五十ノ支部アリテ六千人ノ理事ヲ包含シタリ。各支部ハ約六人ノ組合員ヨリ成ル理事ト支部會議ヲ有ス。最後ニ所謂出張所 (Vertrauensmänner) ナル特殊ノ地方的機關ヲ設クル事ヲ得。一九一〇年ニハ其數約二萬八千ニ及ヘリ。事務ハ四千四百人

ノ有給事務員ニヨリテ行ハル。更ニ三百六十人ノ所謂委員アリ。企業危険等ノ調査ニ對スル技術員トス。

組合會議ハ職務規定中ニ一般任用條件ヲ規定スルヲ要スルカ故ニ疾病金庫ノ場合ト同シク同業組合ノ役員ハ地位ノ保障確實ナリ。

上述ノ如ク勞働者ハ通常ノ業務管理ニツキテモ組合會議若クハ支部會議ニ於テモ何等ノ表決權ヲ有セス。只タ賠償ニ關スル係争ノ裁決ニ參與スル場合ヲ除キテハ同業組合ヨリ公布セララルル傷害豫防規定並ニ組合ノ治療改正ニ關シテ會議ニ參列スルヲ得ルノミ。

二、事業管理ノ最モ重要ナル項目ハ賠償ノ決定及ヒ支拂ナリ。保險セラレタル企業ニ依リテ傷害發生シ被害者即死シ又ハ負傷後死亡シ若クハ三日以上全部又ハ一部勞働不能ニ陥リタル時ハ事業主ハ保險擔當者ノ管轄警察署及ヒ定款ニヨリテ定メラレタル其他ノ場所ニ其

旨ノ公告ヲナスヲ要ス(一五五二條一五五三條)。

公告セラレタル傷害ハ可及的迅速ニ地方警察官廳之カ詳細ナル調査ヲナスヘシ。但シ此際ニハアラユル利害關係者之ニ參加スルヲ得。

賠償決定ニ對スル裁決ハ職權ヲ以テス(他ノ保險ニアリテハ裁決ノ申請アリタル場合ニ限ル)。同業組合カ支部ヲ有スル時ハ特定ノ場合ニハ支部ノ理事ノ權限ニ屬シ然ラサル場合ハ組合ノ理事之ヲ司ル(一五六八條)。

從來行ハレタル假裁決ハ今ハ認めラレス、只タ裁決ノミ認めラル。之ニヨリテ被害者又ハ其ノ遺族ニ賠償ノ承認、拒絕、變更又ハ廢止等通告セララル。此ノ裁決ハ或ハ終決ノモノタリ或ハ一時的ノモノタリ。後者ノ場合ニアリテハ傷害後二年ノ經過セサル内ハ永久年金ヲ確定スルヲ得ス。此ノ裁決ニ對シテ今ハ一ヶ月内ニ同業組合或ハ他ノ權

限アル保險擔當者更ニ保險局或ハ他ノ官廳ニ異議ノ申立ヲナスヲ得。異議申立ヲナシタル被保險者ハ保險官廳若クハ同業組合ニヨリ審問セラレ其ノ結果若シ未タ之ヲ得サリシ場合ニハ取扱醫師ノ看護ノ下ニ置カルル事トナルヘシ。權利者自ラ費用ヲ負擔スル場合ニハ自己ノ選ヒタル醫師ノ看護ヲ要求スル事ヲ得。然ル時ハ終局決定生ス。此ノ終局決定ニ對シテハ一ヶ月内ニ保險監督局ニ控訴スルヲ得。第三審トシテ帝國又ハ地方保險院ニ對シテ上訴スル事ヲ得。

此ノ上訴ニツキテハ從來ノ法律ニハ多クノ場合規定セラレサリシカ故ニ訴訟手續ノ補充トシテ紹介スヘシ。次ノ場合ニハ此ノ上訴ハ許サレヌ。

(一)療養又ハ自宅治療。

(二)裁決當時抗爭サレサリシ所得不能若クハ既ニ確定シタル所得不能ニ對スル年金。

(三)繼續的所得不能ノ場合ニ限局セラレ且ツ既ニ經過セル或一定期間ニ對シテ與ヘラルヘキ年金部分。

(四)入院治療。

(五)家族年金。

(六)死亡手當金。

(七)一時的年金。

(八)事情ノ變化ニヨル繼續年金ノ改定。

(九)一時金ヲ以テ元本濟清ヲナス場合。

(十)訴訟手續ノ費用。

扱テ傷害年金ニハ一時的及ヒ繼續的ノ二種アリ。其ノ額ニ關シテ

「繼續年金カ未タ確定セラレサル限リハ一時的手當金存スルナリ。繼續年金ハ遅クトモ傷害發生後二年内ニ確定セラル。一時年金ニ關シテハ傷害後二年内ニ事情ノ變化セル場合ニハ何時ニテモ確定セラルノ特徴アリ。繼續年金ト雖モ變更シ得レトモ勿論タタ少クトモ都度一年ノ期間ニ於テスルヲ要ス。」

賠償カ有效ニ確定シタル時ハ同業組合理事ハ權利者ニ對シテ支拂ヲ委託シタル郵便局ヲ通知スルヲ要ス(七二六條)。何トナレハ傷害賠償金ノ支拂ハ特ニ郵便行政ノ取扱フ所ニシテ受取權利者ノ住所地ヲ管轄スル郵便局此ノ任ニ當レハナリ。

郵便局ノ支拂ヒタル額ハ直ニ手續費用ニ合シテ同業組合員ニ請求セラル。組合員ノ支拂フヘキ額ハ此ノ目的ノ爲メニ設ケラレタル徵稅簿ニヨリテ組合員間ニ分擔セラル。強制的取立ヲ行ハサル場合ニ

ハ二週間内ニ拂込ミヲ爲スヲ要ス。掛金決定ニ對スル異議ノ申立ハ一時拂ノ義務ヲ妨ケス。若シ理事カ組合員ノ申立ヲ承認セサル場合ニハ事情ニヨリテハ帝國保險院ニ抗告スル事ヲ得。

三合理的ナル保險制度カ皆發生セサル傷害ニ對スル賠償ニ從事スルニ止マラス極力其ノ發生ヲ豫防セント試ムル如ク傷害保險ニアリテモ亦廣汎ナル傷害豫防ニ關スル規定ヲ設ケ實際ニ於テ亦實行セラルルヲ見ルナリ。

即チ農業傷害ノ場合ヲ除キ他ノ同業組合ハ左記ノ事項ニ關シテ法規ヲ發スルノ義務アリ(従前ハ單ニ權利アルニ過キサリキ)。

(一)組合員ハ企業ノ傷害豫防上必要ナル設備及ヒ規則ヲ設ケ之ニ違反シタル場合ニハ罰金ヲ課スル事。

(二)被保險者カ傷害ノ豫防ニ關シ業務上遵奉スヘキ規則。

是等ノ規定ヲ決定スルニ際シテハ労働者側ノ代表者之ニ參加シ帝國保險院ノ認可ヲ經サルヘカラス。此ノ規定ニ對スル異議ニ對シテ次ノ條文新ニ規定セラレタリ。即チ或企業ニ同一他國語ヲ使用スル労働者二十五人ニ及フ時ハ此ノ豫防規定ハ亦當該外國語ニ於テ公布セラレサルヘカラスト。

同業組合ハ發布セラレタル傷害豫防規定ノ實施運用ニ關シテ努力スヘキ義務アリ。組合ハ又技術上ノ監督者ヲ採用シ以テ傷害豫防規定ノ勵行ヲ監視シ又傷害事件ノ歸屬又ハ危險率ノ算定ノ爲メ必要ナル限リ企業ノ設備ヲ知悉スヘキ權利ヲ有シ帝國保險院ノ請求アル時ハ之ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ。

同業組合ニ屬スル企業家ハ此種組合規定ノ技術監督員及ヒ新法ニ依リ之ニ類スル任務ヲ負フ帝國保險院ノ常務員ニ對シ要求アル時ハ

營業時間中其作業工場ニ入ルヲ承認スヘキ義務ヲ負フ。

四一九〇〇年以來同業組合ニ左記ノ設備ヲ爲スヘキ權能與ヘラレタルハ極メテ重要ナル意義ヲ有ス。即チ

(イ)企業者及ヒ責任ニ關シテ之ト同一視スヘキ者ノ責任保險。

(ロ)企業従事者並ニ同業組合員組合ノ被保險者及ヒ同業組合ノ役員並ニ是等ノ人々ノ家族ノ爲メノ割増年金金庫及ヒ年金金庫。

(ハ)新法ニヨレハ被害者ニ對スル労働機會ノ調達。是等ノ施設ニ參加スルヤ否ヤハ任意トス。帝國法ノ傷害保險ニヨル責任請求權ニ關スル限リニ於テハ從來(イ)ノ設備ニ於テ保險ニヨリ保證セララルハ三分ノ二ヲ過クル事ヲ得サリキ。此ノ制限ハ徹廢セラレタリ。而シテ従前ハ責任保險ヲ設立スヘキ權限ハ只タ少數ノ同業組合ニ限ラレタリ。然レトモ吾人ハカクノ如キ制度ノ可否ヲ疑ハスンハアラス。同

業組合ハ法律ノ遵據ニ關シテハ帝國保險地院ノ監督ニ服ス。地方保險院ハ一聯邦ノ區域ヲ超エサル同業組合ノミヲ監督ス。監督ノ範圍ハ法規及ヒ定款規定ノ遵守ニ及フ。帝國保險院ハ何時ニテモ同業組合ノ業務ヲ検査スヘキ權利ヲ有ス。

第三章 癱疾、老衰及ヒ遺族保險（帝國勞働保險法第四編參照）

第一節 被保險者（一二二六條乃至一二四五條）

癱疾及ヒ遺族保險ハ帝國勞働保險法第四編ニ規定セラレ以テ舊癱疾保險法ニ代ヘラレタリ。茲ニ着目スヘキハ此ノ新舊兩法共ニ其包含スル老衰保險ヲソノ表題ニ掲ケサル事ニシテ反テ一八八九年ノ最古法ニ之ヲ見ル。其ノ理由ト見ルヘキハ老年者ノ保護ハ癱疾者救濟ニ比シソノ重要ナルノ點少ナケレハナリ。

本章ニ叙ヘント欲スル保險ノ三部門ニ於ケル被保險者ノ範圍ハ同一ニシテ且ツ疾病保險及ヒ使用人保險ニ屬スヘキ人ト殆ント一致スルナリ。又保險加入ニ權利ト義務トノ別アルコト同シ。

一直接ニ帝國法ニヨリテ保險加入義務ヲ負フ者次ノ如シ。

(イ)左ノ者ハ勞働ニ對スル報償ノ程度ヲ問ハズ年齡十六歲以上ナル時ハ無條件ニ保險加入ノ義務ヲ負フ。即チ勞働者、助手、職工、徒弟、僕婢、獨逸海船及ヒ内水船ノ乘組員(船主ヲ除ク)(一二二六條)。

(ロ)普通一年勞働收入二〇〇〇馬克疾病保險ニアリテハ二五〇〇馬克マテ高ムル事ヲ得ルニ反シ本保險ニテハ不變ナリヲ超エサル事ヲ條件トシテ加入義務アル者次ノ如シ。即チ企業従事者、職工、長之ニ準スヘキ位地ノ他ノ役員。但シ皆其ノ業ヲ本業トナスモノニ限ル。ソノ他商業使用人、藥局ノ助手及ヒ見習劇場及ヒオーケストラ所屬員、教師及ヒ教員並ニ船主。

之ヲ見ルモ保險義務者ノ範圍ハ新法ニ依リテ擴張セラレタルナリ(一二二六條)。

二聯邦會議ハ左ノ企業ニ關シ保險加入義務ノ範圍ヲ一般ニ全帝國又ハ一定ノ制限ノ下ニ各地區ニ擴張スル事ヲ得。

(イ)普通保險加入義務者ヲ使用セサルカ又ハ多クトモ一名使用スルニ過キササル工業家及ヒ其他ノ企業家(一二二九條)。

(ロ)使用人員ノ多少ニ拘ラス自己ノ作業場ニテ他ノ工業主ノ委託ヲ受ケ其ノ計算ノ下ニ工作物ノ生産又ハ加工ニ従事スル者(家内工業者)(一二二九條)。

此ノ聯邦會議ノ決議ニヨリ從來既ニ煙草製造及ヒ織物工業ノ家内工業者保險セラレタリ。

三次ノ規定ニヨリ保險義務者ノ範圍ニ一ノ制限設ケラレタリ。

(イ)報酬トシテ單ニ生計ヲ給與セラルルニ過キササル者本保險加入ノ義務ナシ(一二二七條)。

(ロ)聯邦會議ノ詳細ナル規定ニヨリテ加入義務ナシト認メラレタル
一時的勞務者(一二三二條)。

(ハ)官廳ヨリ只タ一定期間ヲ限リテ内地居住ヲ許サレタル外國人ハ
同様ニ聯邦會議ノ規定ニヨリテ加入義務ナシトセララル事アリ(一二
三三條)。

(ニ)廢疾者及ヒ帝國法上ノ廢疾年金又ハ遺族年金ヲ受クル者ハ法律
上加入義務ナシ(一二三六條)。

(ホ)疾病保險加入義務ヲ免セラレタル者ハ又法律ニヨリテ本保險ヨ
リ免セラル。即チ獨逸帝國各聯邦市町村組合自治體又ハ保險擔當者
ノ事業又ハ勤務ニ服スル者ニシテ初等賃銀等級ノ率ニ從ヒタル廢疾
者年金ノ最小額ニ相當スル恩給並ニ同様ノ寡婦年金及ヒ孤兒年金ヲ
期待シ得ル場合。公立學校又ハ營造物ノ教師及ヒ教員モ亦同シ(一二

七三條。

(ヘ)左ノ者ハ加入義務ナシ。即チ帝國聯邦市町村組合自治體及ヒ保
險擔當者ノ役員及ヒ公立學校又ハ營造物ノ教師又ハ教員ニシテ單ニ
職務ノ爲メニ教育セララル者軍籍ニアル保險義務者ニシテ或民業ニ
對スル準備行爲中ノモノ。將來職業ニ要スル學問上ノ教育ヲ受クル
時期中報酬ヲ得テ教授スル者(一二三五條)。

(ト)更ニ申請ニヨリ加入義務ヲ免セララル者次ノ如シ。大學教育ヲ
受クル恩給受領者及ヒ只タ短期間從業スル者(一二三八條)。
四任意保險ニハ滿四十歳ニ達スルマテハ何時ニテモ法律上任意ニ加
入スルヲ許ス。自己保險(Selbstversicherung)ト保險義務ヲ生スル關係ヨ
リ離レタル者ノ任意繼續スルヲ得ル繼續保險(Weiterversicherung)トノ區
別アリ。滿四十歳迄自己保險ニ加入スル權利アル者次ノ如シ(一二四

三條、一二四四條。

(イ)定期年收二〇〇〇馬克以上三〇〇〇馬克以下ノ企業従事者、職工長、其他之ニ準スヘキ位地ニアル使用人ニシテ之ヲ本業トナス者、商業使用人、商業見習、藥局ノ助手及ヒ見習、劇場及ヒオーケストラ所屬員、教師及ヒ教員。

(ロ)工業主及ヒ其他ノ企業家ニシテ普通保險義務者ヲ使用セサルカ多クトモ二名使用スル者並ニ家内工業者。

(ハ)勞務ノ報酬トシテ單ニ生活資料ヲ給與セラルルニ過キサル者。

(ニ)従事スル企業ノ性質一時的ナル爲メ聯邦會議ニヨリ保險義務ヲ免セラレタル者。

第二節 保險擔當者(二三二六條乃至一三八〇條)

一、癱疾保險ノ普通ノ擔當者ハ國家ノ保證ノ下ニアル三十一個ノ保險所 (Versicherungsanstalten) ナリ。其ノ管轄範圍ハ市町村組合(例ヘハ縣州ノ如キ)其他ノ地域或ハ聯邦領土ニヨリテ定マル保險所ノ外ニ特設保險所ナル擔當者アリ。

保險所ハ自己ノ名ニ於テ權利ヲ得義務ヲ負ヒ裁判所ニ訴ヘ又ハ訴ヘラルル事ヲ得。其ノ債務ニツキテハ債權者ニ對シ保險所財產代當ス。若シ保險所財產ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニハ保險所ヲ設ケタル市町村組合責任ヲ負ヒ更ニ其ノ無資力ナルカ又ハ保險所カ聯邦若クハ其ノ一部ノ爲メニ設ケラレタルモノナル場合ニハ當該聯邦其ノ責ニ當ル。

各保險所ハ定款ヲ設ケ(一三三八條)業務管理ニ關スル重要事項ヲ明示スルヲ要ス。定款ハ帝國保險院又ハ地方保險院ノ認可ヲ受クヘシ

一三三九條。

保險所ハ普通理事ニヨリテ代表セラル(一三四三條)。理事ハ公ノ官廳タル性質ヲ有ス(一三四三條)。理事ノ事務ハ市町村組合若クハ當該保險所ヲ設ケタル聯邦ノ一名又ハ數名ノ吏員ニヨリテ管掌セラル。專任理事其ノ中一名ヲ理事長トスハ地方法ニ遵據シ市町村組合又ハ地方行政官廳ニヨリテ任命セラル(一三四四條)。上掲ノ理事者ノ外ニ事業主及ヒ被保險者ノ名譽職的代表者モ理事者タラサルヘカラス。更ニ定款ニヨリ尙ホ數名ノ理事ヲ設ク得。定款ニ遵ヒテ是等ハ或ハ有給タリ或ハ無給タリ。

各保險所ハ一ノ委員會ヲ置キ企業家及ヒ被保險者ヨリ少クトモ各五名ノ代表者ヲ出シテ之ヲ組織ス。委員一名毎ニ少クトモ二名ノ補充員ヲ選出ス。

委員會ハ就中左ノ業務ヲ司掌ス。

(イ)專任ニアラサル理事ノ選任。

(ロ)豫算ノ査定。

(ハ)歳計ノ検査。

從來下級行政官廳ノ管掌ニ屬シ之カ爲メニ保險所ノ管轄區域又ハ其ノ一部分ニ對シテ其理事ヨリ年金取扱所ナル制度設ケラルルヲ得タリシ事務ハ今日ニテハ保險局ノ司ル所トナレリ。

保險局ハ特ニ次ノ職務ヲ有ス。

(イ)保險義務ノ免除並ニ免除ノ取消ノ申立ニ對スル裁決。

(ロ)年金ノ許可或ハ掛金ノ返付ニ對スル申請ノ受理及ヒ其ノ準備並ニ年金ノ許可ノ申立ノ裁決。

(ハ)次ノ事件ヲ信スヘキ理由アル事保險官廳ノ知ル處トナリタル場

合ニ之ヲ保險所ノ理事ニ通知スヘシ。即チ被保險者カ療養ヲ加フル事ニヨリテ迅速ニ所得不能ニ陥ルヲ豫防セラルル事、廢疾年金又ハ寡婦年金ノ受領者ニ療養ヲ加フルニヨリテ其所得能力ヲ回復シ得ヘキ事、最後ニ年金ヲ褫奪シ或ハ年金ヲ休止スル事、之ナリ(六二九條)。

(ニ)掛金拂込ニ關スル係争ノ裁決。

(ホ)廢疾保險ニ關スル事務ノ通知送達。

次ニ地方的名譽職的執行機關ニシテ其數約六六〇〇〇ニ達シタル出張所ノ制度ハ不適當ナリトシテ一九〇〇年ノ法律ニ依リ徹廢セラレタリ。之ニ反シ今日ト雖モ尙ホ保險所毎ニ監督官廳アリテ切符貼付カ正當ニ行ハルルヤ否ヤニ關シテ被保險者ノ検査ヲ爲シツツアリ。二、保險所ノ外ニ特設保險所ナルモノ聯邦ノ承認スル所ナリ。其ノ内容ハ保險所ト同一ナリ。現行制度トシテハ海事業組合ノ特設保險所

ノ外五個ノ大鐵道管理年金金庫及ヒ四個ノ坑夫恩給金庫存ス。

三、舊時傷害保險ニ對シテモ活動シタル裁判所ノ代リニ保險監督局アリ。

四、帝國保險院ハ傷害保險ノ場合ト同様老衰廢疾及ヒ遺族保險ニ於テモ多クノ關係ニ於テ活動ス。

其ノ權限ハ定款ノ承認、業務執行ノ監督、帳簿ノ檢閲、財産ノ管理等ナリ。其ノ裁判上ノ活動ハ係争事件ノ裁決ニアリ。老衰、廢疾及ヒ遺族保險ニ對スル裁決ハ民法及ヒ刑法ニ對スル帝國最高法院ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス。帝國保險院ノ一部局トシテ會計部アリ。會計事務及ヒ保險技術事業ノ執行ヲ目的トス。

第三節 保險ノ給付(一二五〇條乃至一三二五條)

本保険ノ給付ノ主ナルモノハ廢疾者年金、養老年金、寡婦年金、孤兒年金、孤兒手当金、掛金拂戻、治療及ヒ其ノ他ノ給付ナリ(一二五〇條)。

一、(イ)廢疾者年金(Invalidenrente)ハ年齢ヲ問ハス疾病又ハ他ノ缺陷ニヨリ永久廢疾トナリタル被保険者ヲ包含ス。但シ茲ニ廢疾者トハ自己ノ力量及ヒ能力ニ相應シ且ツ其ノ教育ト從來ノ職業トヨリ見テ相應ナリト解スヘキ活動ニヨリテ同一地方ノ類似教育ヲ有スル肉體及ヒ精神上ノ健康者カ同一職業ニ於テ普通獲得スル額ノ三分ノ一ヲ贏得シ能ハサル者ヲ指稱ス(一二五五條時)。

(ロ)一時廢疾者モ亦此ノ年金ヲ支給セラルル事アリ。即チ二十六週間以上間斷ナク廢疾ノ状態ニアル時又ハ疾病手当金ノ満期後廢疾者タル時其ノ状態ノ繼續中支給セラル(一二五五條)(疾病年金)。

二、養老年金(Altersrente)ハ廢疾ノ如何ヲ問ハス滿七十歳ニ達シタル時支給ス(一二五七條)。

廢疾者故意ニ廢疾ノ結果ヲ誘致シタル時ハ廢疾年金請求權ナシ。又次ノ場合ニハ年金ハ全部若クハ一部拒絶スル事ヲ得。即チ被保険者カ刑事判決ニヨリテ有罪ト確定シタル重罪又ハ故意ニ出ツル輕罪遂行ノ結果廢疾トナリタル場合之ナリ。後ノ場合ニアリテ被保險者カ内國ニ居住スル家族ヲ有シ且ツ從來彼ノ勞働收益ニヨリテ扶養シ來リタル場合ニハ年金ハ全部又ハ一部家族ニ轉給スル事ヲ得。

三、遺族年金(Hinterbliebenenrente)ハ之ヲ分説スル事次ノ如シ。

(イ)寡婦年金(Witwenrente)トハ永久廢疾者タル寡婦ニ支給セラルル年金ナリ。茲ニ廢疾者トハ廢疾者年金ノ場合ニ説ケルト同シ。

(ロ)寡婦疾病年金(Witwenkrankrente)トハ永久廢疾ニハアラサレトモ

二十六週間連続シテ癱疾状態ニアル場合其ノ繼續中寡婦ニ對シテ支給セラルル年金ナリ。

(ハ)孤兒年金 (Waisenrente) ハ次ニ掲クル者ニ之ヲ支給ス。

(一)被保險者タル父又ハ母ノ死亡後十五歳未満ノ嫡出子。十五歳未満ニシテ父亡キ嫡出子又ハ私生兒同シ。

(二)被保險者タル妻所得不能ノ夫ヲ有シ一家ノ生計ノ全部又ハ大部分ヲ自己ノ勞働所得ヨリ給シタル場合ニ於テ若シ此ノ妻死亡セハ十五歳未満ノ嫡出子必要期間中孤兒年金ヲ受ク。

(三)更ニ夫カ法律上ノ理由ナクシテ同棲ヲ拒ミ父タル扶養義務ヲ盡ササル場合被保險者タル妻死セハ十五歳未満ノ嫡出子ハ此ノ年金ヲ支給セラル。

(四)父母ナキ孫十五歳未満ニシテ其ノ生計ハ全部又ハ大部分被保

險者ニヨリテ支給セラレタリシ場合ソノ被保險者タル祖父死亡シタル場合。

(ニ)鰥夫年金 (Witwerrente) 被保險者ニシテ家計ノ全部又ハ大部分ヲ其ノ勞働所得ヨリ給シタル妻死亡シ所得不能トナリタル鰥夫ハ必要期間中支給セラル。

以上ノ年金ノ外ニ法律ハ次ノ二種ヲ認ム。

(ホ)寡婦手當金 (Witwengeld) 當該辨濟期マテニ既ニ癱疾者年金ノ待期ヲ滿了シ期待權ヲ正當ニ有スル寡婦ニ支給セラルル一時手當金ナリ (寡婦年金ノ月掛金十二ヶ月分)。但シ此際同時ニ亦被保險者タリシ夫ハ其ノ死亡ノ際上掲ノ條件ヲ充シタル事ヲ要ス。

(ヘ)孤兒手當金 (Waisenaustener) 孤兒滿十五歳ニ達シタル際第五ニ掲ケタル二個ノ條件ヲ具備スル時支給セラルル一時手當金ナリ (上掲寡

婦年金ノ月掛八ヶ月分)

四、(イ)金錢ヲ給與スルニ代ヘテ療養ヲ給スル事アリ。被保險者又ハ寡婦疾病ニ罹リ其ノ結果癱疾トナルノ虞アル時ハ保險所ハ此ノ不利益避止ノ爲メ療養ヲ加フルノ權利ヲ有ス。此ノ場合特ニ患者ヲ入院セシメ又ハ保養院ニ收容スル事ヲ得。患者若シ既婚者ニシテ家族ト同棲シ又ハ自己ノ家計ヲ有シ若クハ家族ノ一員トシテ家計ニ與ル場合ニハ入院セシムルニ際シテ其者ノ同意ヲ得ルヲ要ス。被保險者カ生計ノ大部分ヲ其ノ勞働所得ヨリ給シツツアリシ場合ニハ治療中其ノ家族ハ家族手當金ヲ受ク。被保險者カ帝國法又ハ地方法ニヨル疾病手當金ヲ受ケサル場合ニ於テモ之ヲ妨クル事ナシ(一二七一條)。(ロ)定款ノ規定ニヨリテ特定ノ場合ニ限り市町村又ハ市町村組合ハ次ノ事項ヲ定メ得。「被保險者農民ナル時ハ年金ノ三分ノ二限リ現金ニ

代フルニ物品ヲ以テ給與ス」。

(ハ)保險所ノ定款ニ基キ年金受領者ノ申請ニ依リ其ノ理事ハ年金ニ代フルニ保險所ノ費用ニ於テ癱疾者收容所、孤兒院又ハ類似ノ營造物ニ收容スル事ヲ得。

五、他ノ社會保險ト異リ癱疾者年金及ヒ養老年金ノ請求權ハ次ノ各種ノ條件ヲ完了セサレハ發生セス。其條件トハ(一)定期ノ待期ヲ經過シタル事、(二)掛金ヲ怠ラサル事ニヨリ期待權ヲ保持スル事ノ二事ナリ。然ルニ他種ノ保險ニアリテハ單ニ保險關係ノ存在ト保險事件ノ發生ヲ要件トスルノミ。

待期ハ癱疾年金ニアリテハ保險義務ニ基キ少クトモ一百回以上ノ掛金ヲナシタル時ハ二百週間、他ノ場合ニハ五百週間トス。待期ヲ經過スヘキ事ハ同時ニ寡婦及ヒ孤兒年金ノ請求權發生ノ要件ナリ。養

老年金ニアリテハ待期ハ一千二百週間トス。

任意保險ノ爲メノ掛金ハ保險義務又ハ自己保險ニ基キ少クトモ百回ノ掛金ヲ爲シタル場合ニノミ廢疾者年金ノ待期ニ算入セラル。

六、年金ノ額ハ被保險者ノ爲メニ掛ケラレタル掛金ノ數ニヨリテ定マラル。而シテ此ノ掛金額モ亦被保險者所屬ノ賃銀等級ニヨリテ異ル。

(イ)各年金ノ基礎ハ國庫補助金ニシテ廢疾者、養老、寡婦及ヒ鰥夫年金ニアリテハ五〇馬克、孤兒年金ニアリテハ二五馬克トス。廢疾者年金ニアリテハ更ニ基本額アリ。賃銀等級ニヨリテ異リ五個ノ等級ニ於テ六〇馬克ヨリ一〇〇馬克ニ及フ。賃銀等級ハ被保險者ノ一年勞働所得ニヨリテ定マリ次ノ各種ヲ包含ス。

賃銀等級第一等	三五〇馬克迄
同 第二等	三五〇——五五〇

同 第三等	五五〇——八五〇
同 第四等	八五〇——一一五〇
同 第五等	一一五〇馬克以上

上掲ノ國庫補助金及ヒ基本額ノ外ニ所謂割増金アリ。之亦賃銀等級ニヨリテ異ル。

一回ノ掛金週間ノ割増金次ノ如シ。

賃銀等級第一等	三「ベニヒ」
同 第二等	六
同 第三等	八
同 第四等	十
同 第五等	十二

各賃銀等級ノ掛金週間ノ増加ト共ニ割増金モ亦増加スル事勿論ナ

リ。月割額ニテ前拂サルヘキ廢疾者年金ノ最小限額ハ貸銀等級ニ從ツテ次ノ如シ。

貸銀等級第一等	一一六、四〇馬克
同 第二等	一二六、〇〇”
同 第三等	一三四、四〇”
同 第四等	一四二、二〇”
同 第五等	一五〇、〇〇”

約五十年後恒久狀態ニハ年金額ハ各貸銀等級毎ニ夫々大數ニテ一八五馬克、二七〇馬克、三九〇馬克、四五〇馬克、ニ及フ。

茲ニ喜フヘキ事ハ廢疾小兒年金(Invalidenkindergeld)行ハレテ給與額ノ範圍大トナリタル事ナリ。即チ滿十五歳以下ノ小兒ヲ有スル廢疾年金受領者ハ小兒一名毎ニ其十分ノ一ヲ増シ順次十分ノ五ニ至ルヲ得。

(ロ)養老年金ニハ割増金ナシ。國庫補助金五〇馬克ノ外保險所ヨリ等級ニ應シテ夫々六〇馬克、一二〇馬克、一五〇馬克、一八〇馬克ヲ支給セラル。故ニ金額ハ大約一一〇馬克乃至二三〇馬克ノ間ニアリ。

(ハ)遺族年金ニアリテハ寡婦、鰥夫ニ對スル五〇馬克、孤兒ニ對スル二五馬克ノ定額國庫補助金ニ加フルニ支拂ヒシ掛金ニ應シテ保險所ノ分配アリ。即チ廢疾者年金ノ場合ト同シク保險所ハ基本額及ヒ割増金ヲ給ス。

(1)寡婦年金ニアリテハ國庫補助金ノ外ニ死亡シタル夫カ死亡當時廢疾ナリシ場合ニハ受領スヘカリシ基本額及ヒ割増金ノ十分ノ三ヲ給セラル。寡婦再婚セハ年金止ム。

(2)孤兒年金ハ國庫補助金ノ外ニ第一子ニ對シテ同上二十分ノ三、第二子以下ニハ四十分ノ一ヲ給セラル。遺族年金ハ合シテ死亡者カ死

亡當時受ケシ又ハ癱疾ナランニハ受クヘカリシ癱疾年金ノ一倍半ヲ超ユルヲ得ス。各孤兒年金ノミヲ合シテ此ノ癱疾年金額ヲ超ユヘカラス。上掲ノ規定ハ容易ニ了解シ難カルヘキカ故ニ次ニ實際上ノ計算例ヲ示サン。

被保險者タル一勞働者五十歳ニシテ死亡シ遺族トシテ永久癱疾ノ寡婦及ヒ十五歳未滿ノ孤兒三名存ストセン。死亡者カ若シ二十五年間最高賃銀等級(年收一一五〇馬克以上ノ掛金ヲ支拂ヒシ場合ニハ其ノ癱疾者年金請求權(若シ死亡ノ代リニ同年癱疾トナリシトセハ)ハ次ノ如シ。

- 一 國庫補助金 五〇馬克
- 一 基本額 一〇〇 ”
- 一 割増金 一五六 ” $(25 \times 52 \times 12) \times \frac{1}{2}$

合計年額三〇六馬克

扱癱疾者タル寡婦ハ五〇馬克ノ國庫補助金ノ外 $\frac{1}{2} \times 256 = 128$ 即チ合計 126,80馬克第一子ハ二五馬克ノ補助金ノ外 $\frac{1}{2} \times 256 = 38,40$ 即チ合計 63,40馬克他ノ二子ハ $25 + \frac{1}{2} \times 256 = 31,40$ 馬克ヲ受ク。故ニ遺族總體ニテハ年額 $126,8 + 63,40 + 62,80 = 253$ 馬克トナル。

次ノ例ニ於テハ五人ノ孤兒アリ。其ノ爲メニ一〇〇〇〇回ノ掛金ヲ支拂ハレタリ。掛金ヲナシタル父カ約三十六歳ニテ死シタリトセハ孤兒年金次ノ如シ。

賃銀等級	金額	各孤兒
一	一四七、六〇馬克	約三〇〇〇 ”
二	一五七、八〇 ”	同三二〇〇 ”
三	一六五、〇〇 ”	同三三〇〇 ”

- 四 一七二、八〇” 同三四、〇〇”
 五 一八〇、〇〇” 同三六、〇〇”

此ノ設例ハ例外的ニ高價ノ賃銀ヲ基礎トシテ計上セラレタルハ實際ニテハ大多數ノ年金ハ之ヨリ少額ナリ。寡婦及ヒ孤兒保險ノ制カ社會立法上喜フヘキ現象ナル事何人モ疑フ餘地ナシト雖モ亦帝國社會保險法ニ規定セラレタルモノハ生計保證トシテハ極端ナル最低限ニ過キササル事モ異論ナキ所ナリ。然レ其人アリ唱ヘテ社會強制保險ハ最低限ノ保護ヲ與フヘク夫レ以上最高限ニ到ル保證ハ自由意思ニ基キ自己ノ獨立意思ヨリ發シタル自助ノ力ニ俟タサルヘカラスト謂ハントスルモ遺族保險制度ノ現狀ハ只タ僅カノ場合ニ於テノミ其ノ満足スヘキ最小限ニ到達セリト言ヒ得ルノミナルヲ如何セン。

寡婦及ヒ孤兒保險ノ給付ハ往々貧民救助ノ給付スルモノヨリ劣ル

事アリ。而シテ此ノ點ニ於テハ此種保險ハ實ニ退步ヲ爲シタリト謂フヘシ。何トナレハ此場合寡婦及ヒ孤兒ノ受クル處ハ今日ノ貧民救助ニヨリテ時々支給セラルルモノナルヨリ少ケレハナリ。

(ニ)寡婦手當年金ニハ五〇馬克孤兒手當金ニハ一六馬克三分ノ二ノ國庫補助金附加セラル。

七年金ハ質入レ又ハ差押ヘスルヲ得ス。

被保險者既ニ傷害年金ヲ支給セラレ本年金ト合算シテ左ノ定額ヲ超過スル時ハ本年金ノ請求權止ム。

(一)癱疾者年金及ヒ養老年金ニアリテハ扶養者カソノ死亡ノ時又ハ癱疾トナリタル際受クヘキ癱疾者年金ノ基本額ノ七倍半。

(二)寡婦年金及ヒ鰥夫年金ニアリテハ三倍半。

(三)孤兒年金ニアリテハ

年金ハ勾留中又ハ外國滯在中支給セラレス。外國人ハ特定ノ場合ニハ或ハ請求ニ基カス或ハ請求ニ基キテ一時金ヲ與ヘテ元本濟清ヲナス事アリ。婦人結婚等ノ場合ニ積立シ掛金ノ半額ヲ拂戻ス制度ハ已ニ廢サレタリ。

八、上掲ノ「其他ノ給付」ニツキテハ法律ハ曰ク「理事會及ヒ委員會ノ一致ノ決議ヲ以テ特別財産ノ剩餘金ヲ法律上ノ給付以外年金受領者被保險者及ヒ其ノ家族ノ經濟的使途ニ流用シ得」ト。

九新ニ任意附帶保險(Zusatzversicherung)ノ制設ケラレタリ(一四七二條乃至一四八三條)。即チ總テノ保險加入義務者及ヒ權利者ハ保險所ノ何タルヲ問ハス隨時附帶切符ヲ任意ノ數タケ其受領票ニ貼付スル事ヲ得。之ニヨリテ癱疾者トナリタル場合ニハ附帶年金ノ請求權發生ス。附帶切符ニヨリテ獲得シタル期待權ハ消滅スル事ナシ。被保險者ハ貼

付シタル各附帶切符毎ニ附帶年金トシテ該切符貼用以來癱疾者トナル迄毎年二「ベニヒ」宛ノ割合ニテ支給セラル。受領票ニ切符ヲ貼付シタル曆年ヨリ癱疾トナリタル曆年迄年數ハ計算セラル。附帶保險ニ加入シタル事ニヨリテ得タル期待權ハ消滅スル事ナシ。附帶年金ハ癱疾ノ續ク限り支給セラル。

實例ヲ引キテ本保險ノ意義ヲ了解スルノ一助タラシムヘシ。

二十五歳ニシテ五枚ノ附帶切符ヲ貼付シ始メ從ツテ五馬克ノ掛金ヲ爲シタリトセヨ。其人三十五歳ニシテ癱疾トナル時ハ $2 \times 5 \times 10$ 「ベニヒ」 $= 100$ 「ベニヒ」即チ一馬克増ノ癱疾年金ヲ支給セラルヘシ。然ルニ其人若シ癱疾ニアラストセハ假令七十歳ニナリテ養老年金ヲ得ルノ幸福ヲ有スル時ト雖モ尙ホ附帶掛金ノ拂戻ヲ受クル事ナシ。

此ノ附帶保險ハ勞働者問題解決策トシテハ決シテ適當ノモノニア

ラス。多クノ場合ニ於テ當事者ニ對シテハ附帶保險ニ加入セルヨリ、ハ貯蓄銀行又ハ私營保險ニ掛金スル方有利ナリ。何トナレハ斯クスル時ハ年金コソ得サレ假令廢疾ニアラストモ尙ホ小額乍ラ資金ヲ獲得スルヲ得レハナリ。

第四節 財源ノ調達（三三八七條乃至一四七一條）

一財源ノ調達ニハ帝國企業家及ヒ労働者之ニ參與ス。

(イ)帝國ハ上述ノ如ク五〇馬克或ハ二五馬克或ハ一六馬克三分ノ二ノ補助金ヲ支給ス。其他軍務從事中ノ者ニ給スヘキ年金ノ一部帝國保險院ノ經費並ニ切符販賣及ヒ郵便ニヨル年金支拂等ヲ擔當ス。

(ロ)其他ノ費用ハ一半ハ被保險者ヨリ他ノ一半ハ企業家ヨリ其掛金ニヨリテ徵集ス。

二被保險者ハ保險加入義務アル労働又ハ勤務關係ニ服スル間每週保險掛金ヲ爲スヲ要ス(掛金週間ト謂フ)。

左ノ週間ハ掛金ヲ爲スヲ要セスシテ掛金週間トシテ計算セラル。

(一)其期間中被保險者カ兵役義務遂行ノ爲メ平時動員時又ハ戰時ニ於テ陸軍又ハ海軍ニ召集セラレタル時。

(二)動員時又ハ戰時ニ於テ任意ニ軍役ニ就キタル時。

(三)疾病ニ罹リ一時所得不能トナリ職務ニ従事スルヲ得サリシ事情ヲ證明シタル時。

三掛金週間ノ掛金額ハ一定期間賃銀等級ニ應シテ豫メ確定セラル。即チ先ツ一九一〇年十二月三十一日迄ヲ一期トシ爾後十年間ノ掛金額ニツキテハ聯邦會議ニヨリテ統一のニ規定セラル。掛金額ハ昂騰シタリ。現今ノ金額規定ハ一九二〇年末迄有效トス。

掛金額ヲ一定セン爲メ被保險者全體ニ亘リ年平均掛金額計出セラ
 ル。之カ爲メニハ利子及ヒ複利子ト共ニ危險發生ノ蓋然性ヲ測定シ
 將來ノ掛金及ヒ財産ヲ以テ保險所ノ將來ノ費用ノ全部ヲ支辨スルニ
 足ラシムル事ヲ要ス(保險料平均法)。最初歲出ヲ超過シタル掛金收入
 ハ私立生命保險ノ保險料積立金ト類似セル基金トシテ集積シ後ニ至
 リテ掛金歲入額ヲ超過セル支出アル時其ノ利子ヲ以テ之ニ充ツ。
 各賃銀等級毎ニ各被保險者ノ掛金額ハ同一トス。保險所ノ支給ス
 ル年金ノ平均額ニヨリテ各高低アリ。
 四寡婦及ヒ孤兒保險ノ費用支辨ハ癱疾保險ノ掛金ヲ高メテ之ニ充ツ
 掛金ハ次表ニ示ス如シ。之ニヨリテ寡婦及ヒ孤兒保險ノ費用ニ充テ
 更ニ老衰及ヒ癱疾保險モ維持セラル。而シテ此ノ掛金ノ一半ハ勞働
 者他ノ一半ハ企業者ノ負擔トス。

賃銀等級

一年勞働收益

週間掛金

一	三五〇馬克迄	一六ペニヒ從來ハ一四”
二	三五〇”——五五〇”	二四” ” 同二〇”
三	五五〇”——八五〇”	三二” ” 同二四”
四	八五〇”——一一五〇”	四〇” ” 同三〇”
五	一一五〇”以上	四八” ” 同三六”

五掛金ノ拂込ハ受領票ニ切符(一、二、三週分及ヒ夫ヨリ永キ期間ニ對シ
 テ發行セラル)ヲ貼付スルニ依リテ之ヲ爲ス。但シ保險加入義務者ノ
 分ハ黄色ニシテ任意保險者ノ分ハ鼠色ナリ。

被保險者ハ受領票ノ交付ヲ求メ切符貼付ノ爲メニ豫定時刻ニ之ヲ
 提出スヘシ。違背者ハ處罰ヲ受ク。各受領票ハ少クモ五十二週分ノ
 切符貼付ノ場所ヲ有ス。受領票ハ票上ニ印サレタル交付日ヨリ二年

内ニ交換ノ爲メ提出セサル時ハ失效ス。

掛金ハ企業家ヨリ次ノ方法ニテ拂込マル。即チ貸銀ヲ支拂フ際被保險者ノ貸銀等級ニ應シ従業地ノ管轄保険所ヨリ與ヘラレタル切符ヲ従業繼續期中受領票ニ貼付スルナリ。企業家ハ自費ヲ以テ切符ヲ購入スルヲ要ス。

被保險者ハ給料支拂ノ際掛金ノ半額ヲ控除セララルヘシ。而シテ企業家ト協定セスシテ貸銀等級以上ノ保険ニ加入シタル場合ニハ此ノ超過掛金額モ亦控除スルモノトス。企業家ハ此ノ方法ニヨリテノミ被保險者ニ歸スヘキ額ヲ回收スルヲ得。

一方保険加入義務者ハ企業家ニ代リテ自ラ掛金ヲ爲スノ權利ヲ有ス。但シ企業家ニ對シテ相當額ノ求償權ヲ有スル事勿論ナリ。任意保険ニアリテハ之ニ加入セントスル者ハ其ノ従業地又ハ従業

セサル時ハ所在地ヲ管轄スル保険所ノ切符ヲ用ヒサルヘカラス。貸銀等級ノ選擇ハ自由ナリ。被保險者外國ニ赴ク時ハ其地ニ於テ保険ヲ繼續スルヲ得。此ノ場合ニハ最後ノ従業地又ハ所在地管轄ノ保険所ノ切符ヲ貼用スルヲ要ス(一四四〇條)。

掛金ノ拂込ハ一定官廳ノ特別規定ニヨリテ徵收所ヲシテ收納セシメ及ヒ既設ノ金庫例ヘハ疾病金庫ニ委託シ得。或ハ此爲メニ特定地方徵收所ヲ設置スル事アルヘシ(一四四七條)。

第五節 事業ノ管理

一年金請求權ノ實行ハ給付ノ申請ニヨル。即チ受領票醫師ノ診斷書等ノ必要證書類ヲ保險局ニ提出シテ申請スヘシ。但シ之ニ反スル地方法上ノ特別規定アル場合ハ之ニ從フ。保險局ハ事實關係ヲ明ニシ

事件ノ準備ヲナシ權利者カ費用ヲ負擔シテ請求ヲ爲シタル時ハ醫師ノ意見ヲ徵スヘシ。而シテ被保險者及ヒ企業者ノ各代表者一人ヲ召喚シテ口頭辯論ニテ又特定ノ場合ニハ辯論ナシニ事件ヲ審理シ意見ヲ發表シテ之ヲ當該保險所ニ送ル。保險所ハ裁決ス。而シテ申請者ノ請求ハ承認又ハ拒否セラル。此ノ裁決ニ不服ノ者ハ保險監督局ニ控訴スルヲ得。更ニ裁判手續トシテハ帝國保險院又ハ地方保險院ニ上告ヲナスヲ得。但シ次ノ場合ニハ之ヲ許サス。

(一)年金ノ程度開始終了ニ關スル件。(二)一時金ニヨリ元本濟清ヲナス件。(三)寡婦手當金ニ關スル件。(四)孤兒手當金ニ關スル件。(五)手續費用ノ件。

上告ハ次ノ理由アル時ニ於テノミ許サル。即チ當該判決カ現行法ヲ不當ニ適用シ又ハ明白ナル訴訟記録ノ内容ニ違背シタル場合又ハ

手續ニ重要ナル欠缺アリタル場合トス。

二、年金ノ支拂ハ當該保險所ノ理事ノ命令ニ基キ前金ニテ郵便局ヲ介シ即チ普通ニ年金ノ申請當時受領權者ノ住所ヲ管轄スル郵便局ヲ介シテ行ハル。

三、各保險所ハ各自ニ其收入ト財産トヲ管理ス。一八九九年ノ法律現行帝國勞働保險法ハ之ニ次イテ顯ハレタルナリニ於テハ一般財産ト特別財産トヲ區別スル事ニヨリテ管理ハ相互ニ分立スルニモ拘ハラズ財政ノ或程度ノ集中ヲ實現シタリ。此ノ兩種ノ財源ヨリ全保險擔當者ニ共同ニ徵收スヘキ一般負擔及ヒ各個ノ擔當者ニ限ラルル特別負擔ヲ支辯スル事トセリ。

一般負擔トハ主トシテ次ノ給付ヲ謂フ。即チ掛金ノ繼續如何ニ關セス一定ノ請求ノ條件具備スル時ハ金額ヲ給與セララルヘキモノニシ

テ現在及ヒ將來ノ廢疾者年金ノ基本額並ニ小兒年金ノ補助金ニ對スル費用。養老年金、寡婦、鰥夫、孤兒年金、寡婦手當金、及ヒ孤兒手當金ニ對スル保險所ノ給與金。軍務並ニ疾病週間ノ結果タル年金増額。最後ニ年金端數切上。之ナリ。

各保險所ノ特別負擔トハ掛金ノ如何ニ依リテ増額セララル廢疾年金並ニ他ノ一切ノ費用(掛金拂込、治療費、管理費等)之ナリ。

然レトモ保險所ノ獨立管理ニ屬スヘキハ特別財產ノミニ止マラス一般負擔ニ充テラルヘキ財產部分モ亦包含ス。

斯ク財產並ニ負擔ヲ一般ト、特別トニ分類スルニ至リシハ實ニ各保險所ノ財政上ノ地位同一ナラサルニ由ル。更ニ詳言スレハ單ニ自然的、地理的の相異(人口極メテ密集セル都會ト、人口稀薄ナル地方)ニ止ラス主トシテ被保險者ノ年齢ニ相異アルニヨル。即チ保險所ニヨリテ年

齡又ハ體質ニヨル年金受領者ノ數全然異ルナリ。最初ノ制度タリシ賦課式(現今ニ於テハ保險料平均法ニヨリテ排除セラレシカ)ハ全被保險者ニ對シテ年齢及ヒ健康状態ノ如何ニ關セス。同一ノ掛金ヲ徵收シタリシカ是レ固ヨリ保險開始當時ノ被保險者ノ年齢、生命ニ對スル危險及ヒ健康状態ハ大體不變ノモノニシテ掛金徵收ノ基礎タル平均數ニ適應ストナス誤レル根柢ノ上ニ立チシモノナリ。即チ最初存在シタル人員ハ保險繼續中其ノ掛金ニヨリテ負擔金額ヲ支辨セサルヘカラス。若シ保險所ニ於テ最初ニ保險セラレタル人員中老年者ノ一團カ根本平均數ヨリ除外セラレンカ掛金ハ最初ヨリ不足ナルカ又ハ不當ニ高率タラシメサルヘカラサルニ至ラン。

一八九八年半ハ迄保險加入義務者一千名毎ニ平均帝國ニテ五六、東部普國ニテ一〇九、四伯林二〇九ノ年金支給セラレタリ。社會保險ノ

單一性ハ掛金及ヒ年金カ保險所ニヨリテ異ルヲ不適當ト考ヘシムルモノアリ。立法者ハ寧ロ各保險所ノ均一策ヲ講セン事ヲ任務ト見タリシナリ。

四、法律ハ更ニ就中保險所ノ財産状態ノ確實ナル基礎ヲ立ツル事ヲ企テタリ。即テ廣汎ナル範圍ニ亘リ公益ノ爲メニスル投資ハ認可セラレタリ。特ニ專ラ又ハ主トシテ保險加入義務者ノ利益ニナルヘキ設備ニ關シテ然リ。一九一〇年末ニハ三十一ノ保險所及ヒ十ノ特別金庫ノ財産總計十億馬克四分ノ三中三億六千二百萬馬克ハ勞働者住宅建設ノ爲メ六億六千萬ハ他ノ一般利益ノ目的即チ小道路建設、排水、灌溉工事等農業信用ノ爲メ及ヒ國民治療院、病院ノ設立等ノ爲メニ支出セラレタリ。

第四章 使用人保險(使用人保險法參照)

第一節 被保險者

一、一九〇六年十二月十六日ノ奧國法ニヨレハ滿十八歲以上ニシテ私的勤務ニツキ其ノ報酬トシテ月俸又ハ年俸ヲ支給セラレ年額六百クローネ以上ナル者及ヒ公務ニ従事スル多數者ハ本保險加入ノ義務アリトセラル。該法律ノ希望ハ次ノ者ヲ使用人ト見ルニアリ。即チ事業従事員ノ性質ヲ有スル總テノ勤務者並ニ全然又ハ主トシテ精神的勤務ニ従事スル勤務者ノ大部分是レナリ。此ノ全然不完全ナル定義ハ該法ノ實施ニ際シテ甚タ重大ナル誤解ヲ惹起シタリ。上掲ノ如キ概念構成ハ不適當ナルカ故ニ獨逸ノ立法者ハ此方法ヲ避ケ獨逸社會保險ノ他ノ部門ニ於テ採用セラレタル主義ヲ採リテ對象トナリタル

集團ヲ個別的ニ採擇スル事トセリ。

二一九一一年十二月二十日ノ獨逸法ニヨレハ被保險者ハ次ノ如シ。

(一)其ノ職業ヲ本業トスル俸給者ニシテ上級ノ地位ニアル者。
 (二)企業従事者、工場主及ヒ其ノ教育ヲ問ハス總テ同様ノ比較的高地位ニアル使用人、官吏、但シ下級ナルカ又ハ單ニ機械的勞働ニ従事スル者ヲ除ク等ニシテ總テ之ヲ本業トナス者。

(三)商業使用人及ヒ薬局ノ助手。

(四)劇場又ハオーケストラ所屬員。

(五)教師及ヒ教員。

(六)海洋及ヒ内水航路ノ乗組員中特定ノ者。

是等ノ者ハ滿十六歳ニ達スレハ保險義務者トス。但シ職業不能者、一年勞働收入五〇〇〇馬克ヲ超エサル者及ヒ當該業務ニ始メテ從事

シタル際已ニ滿六十歳ヲ超エタル者ヲ除ク。

保險義務者ノ範圍ヲ擴大シテ自己ノ計算ニ於テ俸給生活者ト同様ノ活動ヲ營ム者ニ及ホス事ハ聯邦會議ノ權限ニ委任セラレタリ。

次ノ者ニ對シテハ保險加入義務法律ニヨリテ免除セラル。即チ既ニ充分ナル手當ヲ給セラルル官吏之ナリ。更ニ一定ノ種類ノ者ハ其ノ申請ニ基キ加入義務ヲ免セラル。

本法實施後第一年内ニ於テハ任意ニ本保險ニ加入スルヲ得。但シ次ノ條件ヲ滿ス者タルヲ要ス。年收五千乃至一萬馬克以下ノ者ニシテ本法實施前最近四曆年内ニ於テ年收如何ヲ論セス少クトモ三〇ヶ月以上保險加入義務アル事業ニ従事シタル事之ナリ。獨立ノ小企業者ハ若シ一定ノ條件ヲ充ス時ハ假令年收一萬馬克以上ト雖モ尙ホ加入ノ權利ヲ有ス。

本法施行後一年ヲ經過シタル後ニハ任意加入ヲ許サス。只タ任意繼續ヲ許スノミ。後者ハ外國滞在者並ニ保險加入義務アル事業ヨリ脱退シタル者ト雖モ少クトモ六ヶ月掛金ヲ拂込ミシ後ナル時ハ之ヲ爲スヲ得ヘシ。既ニ百二十ヶ月掛金ヲ爲シタル者ハ毎年三馬克ノ承認料ヲ支拂ヒテ從來獲得シタル期待權ヲ保持スル事ヲ得。實際ノ俸給ニ相應スルヨリ高キ俸給階級ニ屬スル人ハ附帶掛金ヲ爲ス事ニヨリテ保險加入權利者タルヲ得サレ共タ滿二十五歳迄ハ保險加入義務者タルヲ得ヘシ。但シ俸給生活者ハ以前ノ位地ニ於ケルヨリモ少額ノ報酬ヲ受クル事アルヘク此場合ニハ其者ハ舊時ノ階級ニ留マル事ヲ得ルナリ。斯ノ如キ制限ヲ設ケタルノ趣旨ハ特ニ不都合ナル分子カヨリ高キ俸給階級ニアリナカラコノ保險權利ヲ利用セントスルヲ避クルカ爲メノミ。

第二節 保險擔當者

奧國ニ於ケルト同シク獨逸ニアリテモ本保險擔當者ハ新設セラレタル帝國使用人保險所之ナリ。大柏林ニ在リ。既ニ上述セル如ク多數ノ保險加入義務者ハ他ノ保險所ニ於ケルト同シク此處ニ於テ保險セララルナリ。蓋シ本保險ハ既存ノ癆疾及ヒ老衰保險ト併存スレ共從來ノ官廳ヲモ自己ノ爲メニ利用スル事ハ之ヲ爲ササレハナリ。

帝國保險所ハ其ノ機關トシテ理事局其ノ長官ハ聯邦會議ノ決議ニヨリテ終身官トシテ任命セラレ、管理會議、年金委員會及ヒ出張所アリ。帝國宰相ノ監督ニアル理事局ハ一名ノ理事長、定數ノ有給理事及ヒ被保險者及ヒ企業家ノ各二名宛ノ名譽職理事ヨリ成ル。而シテ被保險者タル使用人及ヒ事業主ノ少クトモ十二名ノ代表者ハ理事長ヲ會

長トシテ管理會議ヲ構成ス。此ノ會議ハ理事局ノ諮問ニ應シ建議ヲ爲シ決算及ヒ貸借對照表ヲ完了ス。帝國保險所ノ第三機關ハ年金委員會ナリ。帝國保險所ノ必要ニヨリテ開キ其位置ト範圍ハ聯邦會議ニヨリテ定メラル。各年金委員會ハ一名ノ常任委員長、少クトモ一名ノ副委員長及ヒ陪席員ヨリ成ル。委員長及ヒ副委員長ハ宰相ニヨリテ任命セラル。主トシテ兼職トシテ之ニ當ルヲ常トス。本職ハ帝國或ハ聯邦官吏ナリ。法定ノ場合ニハ陪席員トシテ保險代表者任命セラル。其ノ半數ハ企業家及ヒ被保險者タリ。合シテ二十名以上トス。年金委員會ハ重要ナル職能ヲ有ス。殊ニ恩給及ヒ年金ノ確定、指定、褫奪及ヒ休止、治療手續實行ニ關スル請求ノ採用、及ヒ報告之ナリ。年金委員會ハ事務執行ニ際シ出張所ノ協力ヲ要求スル事ヲ得(第四機)。此ノ機關ハ同様ニ企業家及ヒ被保險者ヨリ成リ下級行政官廳ノ管轄

ニ對シテ少クトモ六個ヲ算ス。

上級司法官廳トシテハ裁判所及ヒ上掲高等裁判所アリ。陪審官ハ少クトモ十二名ニシテ又半數ハ被保險者及ヒ企業家ヨリ成ル。

帝國保險所ノ外ニ本保險擔當者トシテ賠償金庫アリ。其ノ保險上ノ職能ハ帝國保險所ト同シ。但シ聯邦會議ニ歸屬スル本金庫設置認可權ハ獨逸法ニアリテハ奧國法ヨリ遙ニ制限セラレタリ。

就中是等製造工場、家庭、海員其他ノ諸金庫ハ既ニ一九一一年十二月五日以前ニソノ權利能力ヲ認メラレタリ。更ニ本金庫ニハ其ノ設立ノ目的タル全保險義務者歸屬セサルヘカラス。金庫ノ給付ハ少クトモ帝國法上ノ保險給付ト等シカルヘク企業家ノ掛金モ亦然リ。又金庫ハ使用人ニ對シ管理上法律ニヨリテ正當トセラレタル範圍ノ權利ヲ認容セサルヘカラス。更ニ被保險者ニハ何ヨリモ完全ナル移住權

ヲ承認セサルヘカラス。然レ共是等ノ條件ヲ充スハ極メテ困難ナルカ故ニ賠償金庫トシテ認可サレ得ル可能性ト期待トヲ有スルカ如キ施設ハ極メテ少數ナルヘク從ツテ多クハタタ割増金庫トシテ存積スルノミ。

此ノ増割金庫ニ關スル規定ニヨル時ハ賠償金庫設立ノ要件ニ適應スルヲ要セサル既存救濟金庫ヲ繼續スルモ可ナルヘク又使用人ノ爲ニ新設スル事ヲモ得ヘシ。然レ共本金庫モ亦多數ノ條件ヲ滿スヲ要ス。先ツ第一ニ法規ニヨル保險加入義務者ノ爲メニノミ設立シ得ヘク次ニ本保險ニ對スル本金庫財産部分ハ分離セラレ特別ニ管理セララルヲ要シ更ニ掛金拂込ハ本金庫ヲ介シテ爲サルヘク企業家掛金ハ少クトモ法定ノ額ヲ下ル可ラサル事等之ナリ。是等條件具備セハ本金庫ハ其ノ加入者ノ爲メニ法定ノ掛金ヲ帝國保險所ニ拂込ムヘク之

ニ對シテ同保險所モ亦法定ノ給付ヲ金庫加入者ニ爲スヘシ。從ツテ本金庫ハ帝國保險所ニ於ケル法定給付額ノ程度ニテ一種ノ再保險ヲ爲スナリ。附加金庫(Zulagekasse)ト呼フヘキ制度ハ上掲二金庫ト異リ斯ル許可ヲ求ムル事ナク單ニ次ノ目的ヲ遂行セントスルモノナリ。即チ本金庫ニヨル被保險者ニ帝國保險所ノ(低率)給付ト既存金庫ノ(高率)給付トノ開キヲ與ヘントスルナリ。但シ本金庫ノ法律上ノ地位ハ甚タ疑ハシ。

一九一一年十二月五日以前ニ生命保險業者ト保險契約ヲ締結シタル使用人ハ左ノ場合ニハ申請ニ基キ掛金ヲ免セラル。

即チ本法實施ノ時ニ當リ此ノ保險ノ爲メニスル掛金年額カ少クトモ法規ニ基キ擔當セサルヘカラサル申請時ノ俸給額相當ノ金額ニ達シタル事之ナリ。企業家ハ法規ニ基ケル掛金額ヲ帝國保險所ニ拂込

ムヲ要ス。之ニ對シ被保險者ニ法規ノ半額給付支給セラル(代償契約)。但シ企業家カ従事員ノ私立保險掛金ニ補助金ヲ支拂ヘル場合ニハ此ノ補助金ヲ帝國保險所ニ拂込ムヘキ拂込額丈ケ減縮スルヲ得。

第三節 保險ノ給付

本保險ノ客體ハ次ノ如シ。

- (一) 使用人自身ニハ廢疾者年金及ヒ養老年年金共ニ恩給金ト謂フ。
- (二) 家族ニハ遺族年金(寡婦年金、鰥夫年金及ヒ孤兒年金)。

恩給ヲ支給セラルル者ハ從業不能又ハ法定年齢ニ達セル事ヲ證明シタル者ニシテ一定ノ時期ヲ完了シ期待權ヲ保持スルヲ要ス。遺族年金ハ死亡者カ死亡當時既ニ待期ヲ經過シ期待權ヲ正當ニ有スル場合ニ支給セラル。前者ハ被保險者ニシテ滿六十五歳ニ達シ肉體上ノ

缺陷又ハ虛弱ニヨリ職務ニ從事スヘキ肉體上又ハ精神上ノ能力ヲ永久のニ失ヒタル者ニ支給セラル。從業不能トハ其ノ勞働能力カ同様ノ教育智力及ヒ技倆ヲ有スル肉體精神共ニ健康ナル被保險者ノ半ニ達セサル者ヲ謂フ。又永久のニアラサレ共二十六週間繼續シテ從業不能ナリシ者其繼續中疾病恩給金ヲ受ク。寡婦年金ハ被保險者タリシ夫ノ死亡後其ノ寡婦ニ給セラル。孤兒年金ハ被保險者タリシ父ノ死亡後十八歳以下ノ子及ヒ被保險者タル母ノ死亡後其ノ父ナキ十八歳以下ノ子之ヲ受ク。私生兒ハ之ヲ父亡キ子ト看做ス。被保險者タル妻死亡後其ノ夫所得能力ナク家族ノ生計ハ全部又ハ大部分亡妻ノ勞働所得ニ出テタル時其子滿十八歳以下ナル時ハ孤兒年金ヲ又夫ニハ鰥夫年金ヲ共ニ必要期間中支給セラル。被保險者ノ死亡當時夫婦關係カ既ニ存在セサリシ場合ニモ孤兒年金ヲ妨クル事ナシ。被保險

者タル妻死亡シ其夫ハ法律上ノ理由ナク同棲ヲ拒ミ父トシテノ扶養ヲ爲ササリシ場合ニハ滿十八歳以下ノ子ニ孤兒年金支給セラル。此ノ場合假令死亡ノ當時夫婦關係既ニ存セス從ツテ夫ニ父タル扶養義務ナキ時モ尙ホ然リ。

是等金錢給付ノ外更ニ治療手續アリ。帝國保險所ハ疾病ノ結果從業不能ノ生セン事ヲ恐レ其ノ豫防トシテ之ヲ行フヲ得。疾病者ノ家族ニシテ從來全部又ハ大部分生計ヲ被保險者ノ勞働收入ニ獲タル者ハ其ノ治療中家庭手當金ヲ受ク。但シ少クトモ毎日最後ニ支拂ハレタル月掛金ノ二十分ノ三即チ二四ベニヒ乃至三九九ベニヒナリ。貸銀又ハ俸給カ請求權ニ基キ支拂ハルル限リ此ノ手當金給セラルル事ナシ。

金錢支給ニ代フルニ物件支給ヲ以テスル事アリ。恩給又ハ年金ノ受

領者ハ申請ヲナシテ癡疾院又ハ孤兒院又ハ類似ノ施設ニ收容セラルル事ヲ得。但シ現金支給ヲ全部又ハ一部件フヲ得。酒癖者ハ全部又ハ一部物件給付ヲ認容セラルル事ヲ得。

上掲ノ如ク年金ノ支給ハ待期ノ經過ヲ待チテ行ハル。待期ハ

(一)被保險者男子ノ場合ニハ恩給金ニツキテハ一二〇掛金月婦人ノ場合ニハ六〇月トス。

(二)遺族年金ノ時ハ一二〇月只タ本法實施後最初ノ十年内ニ於テハ六〇掛金月ニ短縮セラル。

六〇回掛金月以下ヲ指定シタル場合ニハ待期ハ恩給金ニアリテハ婦人ノ被保險者ノ爲メニハ九〇ヶ月其他ノ場合ニハ總テ一五〇ヶ月トス。

期待權ハ次ノ場ニハ消滅ス。即チ一定期間内ニ一定ノ最低限額

ノ掛金ヲ拂込マサルカ承認料滞納セル場合之ナリ。期待權ハ被保險者カ掛金又ハ承認料辨濟期ノ次年内ニ未濟額ヲ追濟スル時ハ回復ス。之等ノ制限ハ軍役ニ於ケルモノ、勞働不能者及ヒ教育ノ爲メニ國家ノ承認セル學校へ通學スル者ニハ適用シテ之等ノ事情ハ保險加入義務アル企業ニトリテハ期待權ノ維持ト同一視セラル。

保險給付ノ計算ニ關シテハ法律ハ次ノ如ク規定セリ。

恩給ハ百二十回ノ掛金月ノ經過後此ノ時期中拂込マレタル掛金價値ノ四分ノ一、其他ハ掛金ノ八分ノ一トス。婦人被保險者ハ恩給金ニ關シテハ男子ヨリ好地位ヲ占ム。

寡婦及ヒ鰥夫年金ハ扶養者カ死亡當時支給セラレ又ハ從業不能ノ際支給セラルヘカリシ恩給金ノ五分ノ二トス。年金カ一定額以上ニ達スル時ハ其ノ程度ニ應シテ減セラル。遺族ノ中一人ノ分離スル時

ハ殘存者ノ年金ハ最高限度迄高メラル。

拂込濟掛金ノ一半ヲ一時金又ハ終身年金ノ形式ニテ拂戻ス事ハ婦人使用人カ五年ノ待期ヲ經過シタル後死亡シタル時並ニ結婚又ハ獨立ノ生活ヲ營ムニ到リシ等ノ原因ニテ保險義務アル事業ヨリ脱退シタル場合ニ行ハル。婦人被保險者ノ特權ハ終身年金ノ支給ヲ受クルニアリ。此種ノ婦人カ保險義務アル事業ヨリ脱スル時ハ其ノ申請ニヨリ獲得シタル期待權ノ維持又ハ掛金ノ拂戻ニ代フルニ終身年金ヲ與ヘラル。其ノ額ハ已ニ得タル恩給期待權ノ價値及ヒ申請者ノ年齢ニヨリテ異ル而シテ年金委員會ノ決定スル處ナリ。

法律ハ更ニ給付消滅ニ關スル規定ヲ設ケタリ。例へハ再婚ノ際ハ年金ノ三倍ヲ拂ヒテ元本濟清ヲナスカ如シ。其他給付ノ中止(從業不能ノ止ミタル場合ノ如シ)年金ノ中止(即チ帝國勞働保險法ニ基ク年金

ト併セ給セラルル時、収益アル事業ヨリ得ル所得ト併存スル時、金額カ一定限度ヲ超エシ時及ヒ他ノ請求權例ヘハ貧民救濟等ニヨリテ生スル請求權ノ如シトノ關係等ノ規定アリ。

第四節 財源ノ調達

本保險ノ財源ハ國家ノ補助金ナク企業家及ヒ被保險者ヨリ徴收セラル。即チ保險義務アル事業行ハルル月毎ニ(即チ掛金月毎ニ)毎度同一金額ノ掛金ヲ拂込ム。保險義務アル事業ハ疾病時ト雖モ被保險者カ俸給ヲ支給セラルル限リ平時ト同一ナリ。恩給ヲ支給セラルル者ハ掛金義務ナシ。

月掛金ハ保險料平均法ニヨレハ同一俸級階級ノ被保險者ニハ同一ナリトス。即チ次ノ如シ。

俸給等級

A	五五〇馬克以上	一、六〇馬克
B	五五〇”——八五〇”	三、二〇”
C	八五〇”——一、一五〇”	四、八〇”
D	一、一五〇”——一、五〇〇”	六、八〇”
E	一、五〇〇”——二、〇〇〇”	九、六〇”
F	二、〇〇〇”——二、五〇〇”	一三、二〇”
G	二、五〇〇”——三、〇〇〇”	一六、六〇”
H	三、〇〇〇”——四、〇〇〇”	二〇、〇〇”
I	四、〇〇〇”——五、〇〇〇”	二六、六〇”

期待權ヲ維持センカ爲メニハ年額三馬克ノ承認料ヲ支拂フヲ要ス。(設例)或ル使用人カ十八歳ニシテ保險加入義務者トナリ最初ノ三年

間ハ年收八五〇馬克ヲ得次ノ三年間ハCノ俸給階級ニ屬シ次四年ハD次八年ハE次十二年ハF次ニ再ヒCノ階級ニ下落シタリトセヨ。恩給ハ勤績四十年後ハ六五〇、四〇馬克トス。此者五十八歳ニ達シタル時其受クヘキ給付額ト自己ノナシタル掛金額トヲ對比スレハ次ノ如シ。彼ノ爲メニ支拂ハレタル掛金總額ハ四五八八、八〇馬克ニシテ其中自己ノ支出ニ係ルモノ二二九四、四〇馬克トス。今利子及ヒ複利率ヲ三分半トシテ加計ラスレハ五十八歳迄ノ自己支出ニヨル掛金總額ハ四五五六、二五馬克ニ當ル。年金六五〇、四〇馬克トシテ其終身恩給年ヲ支拂ハンカ爲メニハ之ヲ還元シテ六二一、二、一〇馬克ノ資金ヲ要ス。恩給受領權者死亡後遺族ノ請求ヲ満足センカ爲メニハ更ニ一二七八、八二馬克ヲ要ス。即チ合計七四九一、九二馬克ニ當ル。使用人自身ノ支出額ト對比スルニ前掲ノ如ク利子及ヒ複利子ヲ加算シテ尙

ホ此ノ六〇、八二パーセントノミ。而モ彼ハコレニヨリテ長期ニ亘ル保險期間内ニ起ル事アルヘキ從業不能又ハ死亡ニ基ケル貧窮ヲ免レ更ニ同期間内ニ於テ適當ナル治療手續ノ選擇ヲナスヘキ權利ヲ有スルヲ得タルナリ。

掛金ノ調査ノ爲メニ帝國保險所ハ每五年期ニ(一九一九年十二月三十一日ヲ最初トシテ)保險技術ノ貸借對照表ヲ調製ス。若シ此表ニヨリテ損失ヲ生セハ法律ニヨリテ掛金額ヲ昂ムヘシ。若シ又過剩ヲ得ハ同様ニ將來ノ給付額ヲ昂ムヘシ。

被保險者ヲ掛金月中使用シタル企業家ハ自己及ヒ當該被保險者ノ爲メニ掛金ヲ爲スヲ要ス。保險義務者ハ俸給支拂ノ際掛金ノ半額ヲ俸給中ヨリ控除セシムヘシ。此方法ニヨル外企業家ハ被保險者ノ掛金部分ヲ拂戻ス事ヲ得ス。

掛金拂込ミノ受領證トシテハ普通切符ヲ保險證ニ貼用スル法ニヨ
ル。各被保險者ハ此ノ保險證ヲ地方警察署ヨリ受取ル。但シ之ト異
リタル支拂方法及ヒ證書作成方法モ認メラル。

埃國ニ於テハ被保險者ハ六個ノ俸給階級ニ分タル。即チ次ノ如シ。

俸給階級

年 收

1	六〇〇〔クロトネ〕	九〇〇
2	九〇〇	一二〇〇
3	一二〇〇	一八〇〇
4	一八〇〇	二四〇〇
5	二四〇〇	三〇〇〇
6	三〇〇〇	以上

此ノ階級ニ應シテ各俸給月毎ニ支拂フヘキ保險料ハ六、九、一二、一八、

二四、及ヒ三〇〔クロトネ〕トス。前四階級ノ保險料中雇主ハ三分ノ二使
用人ハ三分ノ一ヲ支拂フヲ要ス。後二階級ニテハ折半ス。年收七二
〇〇〔クロトネ〕ヲ超エル被保險者ハ保險料全部自辨トス。本保險ニ對
スル埃國ノ補助金ハ十萬〔クロトネ〕ニ限ラル。法律ハ被保險者ニ支給
スルニ廢疾者年金、養老年金、寡婦年金及ヒ孤兒年金ヲ以テス。

第五節 事業ノ管理

一 保險法ニ基キ使用人ニ給與セララル給付ハ只タ申請ヲ俟チテノミ
行ハル。期限ニヨリテ拘束セラレサル申請ハ證書類ヲ添付シテ年金
委員會帝國保險所ノ他ノ機關、又ハ他ノ内國官廳ニナスヘシ。但シ申
請ノ決定ハ申請當時其者カ住居シ又ハ從業シタル地域ヲ管轄スル年
金委員會ノ權限ニ屬ス。即チ委員會ハ申請ヲ承認スヘキカ拒絕スヘ

キカラ決スルナリ。只タ療養ヲ求ムル申請ニツキテノミ年金委員會ハ之ヲ帝國保險所ノ決定ニ移ス。其他總テノ場合ニハ委員會ノ決議ハ多數決ニヨル。只タ一定ノ申請ノミハ口頭辯論ヲ經ル事ナク委員長之ヲ決定ス。此ノ裁決ノ準備トシテ委員長ハ證人及ヒ事實參考人ヲ訊問シ醫師ノ意見ヲ聽キ官廳ノ報告ヲ徵シ又檢證スルヲ得。此ノ場合ニハ地方警察官廳並ニ區裁判所ヲ利用スルヲ得。申請者ハ全經過ヲ申述フヘシ。裁決ニハ理由ヲ附ス。

二、此ノ裁決ニ不服ノ者ハ裁判所ニ控訴シ更ニ高等裁判所ニ上告スル事ヲ得。抗訴期間ハ一ヶ月トス。次ノ場合ニハ上告スルヲ得ス。(一)恩給又ハ終身年金ノ額開始及ヒ終止。(二)遺族年金。(三)一時金ニヨリテ元本濟請ヲナス事又ハ掛金拂戻。(四)手續費用之ナリ。又再審手續モ認メラル。被保險者ニ對スル手續ノ無料主義ハ傷害及ヒ廢疾保險

ニ於ケルト同シ。

三、帝國保險所ハ年金委員會ノ指定ニヨリ郵便ヲ介シテ支給ス。即チ受領者カ申請當時住居シタル地方ノ管轄郵便局ヲ介スルヲ通常トス。支拂ヒ場所ハ受領者ニ年金委員會ヨリ通知ス。此ノ場合ノ規定ハ範ヲ帝國勞働保險法ニ採レリ。

四、帝國保險所ノ資金ノ運用ニ關シテハ立法者ハ確實ナル保證ノ下ニ充分高率ナル利子ヲ獲得セン事ヲ企圖シタリ。資金ノ大部分即チ少クトモ四分ノ一ハ帝國債又ハ聯邦債ニ投下セサルヘカラス。而シテ殘部四分ノ三ハ一般ニ抵當貸トナスヘシ。帝國宰相ノ同意アル時ハ被保險者ノ一般利益ノ爲メニ一小部分ヲ投資スル事ヲ得。而シテ是等投資ニ際シテ三分五厘ノ利潤ヲ舉ケン事ヲ豫期シタレ共批評家ハ之カ可能ヲ疑ヒツツアリ。

第五章 其他ノ社會保險

第一節 失業保險

今日ニ到ル迄失業保險(Arbeitslosenversicherung)ノ實行性如何ニ關シテハ學說區々ニシテ歸一スル所甚タ少カリキ。蓋シ本保險ハ救貧事業ト保險事業トノ分界點ニアレハナリ。保險救濟ノ要件ハ本保險ニアリテハ適用セラルヘキモノ極メテ部分的ニ限ラレタリ。故ニ保險ノ概念ノ包含スル範圍ヲ極力擴大セント努ムル一派ノ人々ニトリテモ總テヲ包含スヘキ實際ノ廣汎ナル失業保險ヲ考案スヘキ事ハ至難ノ事ニ屬シタルナリ。然レトモ一面ニ於テ失業ナル事實ハ失業者自身ノ責ニアラスシテ却ツテ營利ニ立脚スル資本主義經濟組織ノ發展ニ起因スル事屢ナルハ異論アルヲ聞カサル事實ナルカ故ニ廣ク一般ニ行

ハルル見解ニ從ツテ公的手段ノ下ニ之カ豫防ヲ講セサルヘカラス。而シテ斯ク如キ豫防策例ヘハ勞働紹介ハ保險制度ト相提携スルニアラサレハ決シテ完全ナル效果ヲ期スル事難シ。

我獨逸社會保險制度ニアリテ此ノ失業保險ノ萌芽ノ存在スルモノアル事ハ既ニ一言シタリ。

諸國ニ於ケル從來ノ實際的企圖ノ跡ヲ辿リテ其異同ヲ考究スルニ大約次ノ如キ種類ニ分類スル事ヲ得ヘシ。

(一) 義務的失業保險

(イ) 個々ノ企業毎ニ勞働者ノ義務的保險ヲ規定セントスル試ミハ全然失敗ニ歸シタリ。

(ロ) 都市ノ基礎ノ上ニ立ツヘキ試ミハ聖ガレン市ニ於テ一八九五年ニ爲サレタリ。其ノ施設ニ於テハ同市在住者ニシテ日傭賃銀五法ヲ

超エサル者ハ總テ此保險ニ加入セシムヘク其賃銀額ニ應シテ夫々十
五「サンチーム」二〇「サンチーム」又ハ三〇「サンチーム」ノ週間掛金ヲ支拂
フ事トナシ雇主ヨリ補助金ヲ支拂ハシム。而シテ市町村及ヒ國家ハ
之カ爲メニ金庫ヲ支持スルモノトス。待期ハ之ヲ六ヶ月トシコノ經
過後失業五日ニ及フ時ハ賃銀階級一八〇法、二一〇法及ヒ二四〇法ニ
應シテ日々ノ生活補助金ヲ支給セラル。但シ補助金支給期間ハ六十
日ヲ超エス。以上ノ制度ニ基キテ施行セラレタル金庫ハ久シカラス
シテ廢止セラレ一八九七年ノ夏熟練労働者ノ同意ヲ得テ解散スルノ
悲運ヲ見タリ。

(ハ)次ニバーゼル及ヒチューリヒニ於テモ亦同様ノ企圖存シタリシカ
ソノ實施ヲ見ス。英國ニ於テハ國家的基礎ノ上ニ立テル義務的保險
行ハレタリ(一九一一年末ノ法律ニ依ル)。此ノ制度ニ於テハ先ツ鑛業、

土木業、機械製作業、造船業、運搬具製造業、鑄鐵業等ノ諸種工業ニ從事ス
ル人員約二百五十萬人(即チ全工業労働者ノ三分ノ一)ヲ包含シ當該事
業主、労働者及ヒ國家之ニ關與ス。

茲ニ一言スヘキハ從來此ノ失業保險ハ全國ニ亘リ且ツ極メテ適當
ナル労働紹介ノ制度ト結合シ來リシ事ナリ。更ニ上述ノ義務保險ハ
主トシテ特殊ノ工業ニ限局セラレタルカ、コノ外ニ國家ノ保護ノ下ニ
アリテ全企業ニ亘リ任意加入ノ制度ヲ採用セル失業保險アリ。此ノ
制度ニアリテハ國家ハ當該組合ノ支給シタル金額ノ六分ノ一ヲ拂戻
ス事トセリ。但シ組合ノ給付額カ毎週十二志ヲ超エサル場合ニ限ル。
十六年以上保險強制ノ下ニアル労働者ハ毎逋雇主ト共ニ二片半ノ
掛金ヲ爲スヲ要シ(但シ労働者十八才以下ナル時及ヒ從業期間極メテ
短キ時ハ此ノ掛金率ハ毎週一片ニ減ス)更ニ國家ハ補給金トシテ毎週

一片三分ノ二例外トシテ三分ノ二片ヲ支給ス。
 管理費ハ國家ノ支給スル處ナリト雖モ此ノ外失業基金收入ノ一割
 ハ管理費填補ノ總テノ場合ニ向ケラル。掛金拂込ノ方法ハ獨逸疾病
 保險及ヒ傷害保險ト同シク切符ノ方法ヲ用ヒ勞働者ニ交付セラレタ
 ル帳簿ニ之ヲ貼付スルモノトス。當該企業ニ從事セル勞働者ハ總テ
 保險帳ヲ提出スルヲ要ス。

失業者ハ其ノ失業期間一週間以上ニ及フ時ハ其ノ失業セル事實ヲ
 證明シ又ハ適當ナル勞働機會ノ欠乏セル事ヲ證明スル事ニヨリテ一
 年十五週ヲ限リテ毎週七志ヲ支給セラル。但シ最近五年間ニ亘リ少
 クトモ毎年二十六週間ハ保險加入義務アル企業ニ從事シタル事ヲ要
 ス。商務局ハ此ノ支給額ヲ六志乃至八志ノ範圍ニテ變更シ且ツ支給
 期間ヲ十五週以下ニ短縮スル事ヲ得。

次ノ場合ニハ被保險者タル勞働者ハ失業保險ノ給付請求權ナシ。
 (一)同盟罷工又ハ工場閉鎖ニヨリテ失職シタル場合其ノ原因カ存
 續スル期間中

(二)自己ノ惡行ニヨリ又ハ正當ノ理由ナキニ故意ニ失職シタル場
 合失職ノ時ヨリ六週間

(三)身體刑ニ處セラレタル場合出獄後六週間

(四)公共建設物ニ居住スル場合

(五)一時又ハ繼續的ニ英國外ニ滞留スル場合

五百週以上掛金ヲ爲シメル勞働者ハ滿六十才ニ達スレハ正規ノ支
 給金ノ外ニ從來ナシタル拂込金ニ二分半ノ利息ヲ附シテ之カ拂戻ヲ
 受ク。上掲ノ權利者死亡セハ其ノ相續者此ノ權利ヲ承繼ス。
 失業保險ノ管理ヲ爲スハ普通勞働紹介所(勞働市場)ニシテ大體次ノ

如キ手續ヲナスナリ。但シ商務局ヨリ共済組合ニ委任シタル場合ハ此ノ限リニアラス。

先ツ失業労働者ハ法定ノ切符ヲ貼付シタル保險帳ヲ附近ノ労働紹介所ニ提出シ以テ救済ヲ申請ス。此時同所ヨリ労働機會ヲ與ヘラレタル際ハ勿論之ヲ承服スヘク若シ労働者之ヲ拒絶シタル場合ニハ其者ノ請求權モ亦喪失ス。救済ヲ與フヘキヤ及ヒ其額如何ノ決定ハ保險官吏ノナス處ニシテ許與セラレタル時ハ労働者ハ毎日執務時間内ニ出頭シ之ヲ受領スヘシ。若シ其ノ決定ニ不滿ナルヘキ理由アル時ハ更ニ控訴スル事ヲ得。控訴院ハ一名又ハ數名ノ審判員ヨリ成リ企業家及ヒ労働者双方ヨリ同數ノ代表者之ヲ組織シ黨派ニ屬セサル審判長ノ下ニ每週當該地方ニ開廷セラル。訴訟ハ無料ニシテ若シ労働者召喚セラレテ出頭スル時ハ所要ノ旅費ヲ給セラル。控訴審ノ裁決

保險官吏ノ夫レト一致スル時ハソノ裁決ハ確定力ヲ有ス。反之異リタル裁決ヲナシタル場合ニハ更ニ上訴スルヲ得。此ノ第三審ハ商務局ヨリ指命セラレタル専門家ノ裁決スル處ニシテ其ノ判決ハ確定力ヲ有ス。

(二) 任意的失業保險

(イ) 一八九三年來ベルンニ行ハレタル制度

當公共團體關係ノ労働者ハ皆掛金強制ニ服スト雖モ他ノ労働者ハ加入義務ナシ。六十才以下ノ瑞西労働者ニシテ當市ニ住居スル者ハ總テ加入ノ權利ヲ有ス。即チ毎月七十「サンチム」宛切符ヲ貼付スヘシ。待期ハ八ヶ月トシ、失業八日ニ及ハハ救済金ヲ支給セラル。其ノ額ハ獨身者ニアリテハ最低一法半ニシテ配偶アル者ハ二法トシ、繼續期間ハ冬期二ヶ月ヲ以テ最長トス。但シ次ノ場合ニハ救済金ヲ支給

セス。

(一) 虚偽放埒、背信、不從順ニヨリテ失業シタル場合

(二) 賃銀不滿ノ爲メ又ハ同盟罷工ニヨリテ失業シタル場合

(三) 充分ノ理由ナキニ與ヘラレタル職ニ就クヲ拒ミシ場合

(ロ) ケルン市ノ冬期失業者ニ對スル保險金庫制度

本制度ハ一八九六年同市ヨリ補助ヲ受クル事トナリシ私立ノ施設ニシテ其ノ加入ハ任意トス。滿十八才以上ノ男子勞働者ニシテ一年以上同市ニ居住シ繼續的所得不能ニアラサル者ハ總テ本金庫ニ加入スル事ヲ得。掛金額ハ不熟練勞働者ニアリテハ毎週二十五「ベニヒ」トシ熟練勞働者ハ三五「ベニヒ」トス。其ノ方法ハ切符貼付ニヨル。保險金支拂ノ條件ハ三二又ハ三四週間掛金ヲ爲シタル後繼續失業三日以上タル事ヲ要ス。支給全額ハ最初二十日間ハ毎日二馬克、其ノ他ハ一

馬克トス。

此ノ種金庫ハ同市官廳組合及ヒ私人ノ充分ナル補助アルニアラサレハ成立スル事ヲ得ス。

(ハ) 一九〇五年來ノライプチヒ市金庫制度

本制度ハ福音教會及ヒカトリック派ノ勞働者組合ニ基礎ヲ有ス。

然レトモ其ノ實績未タ大ニ見ルヘキモノナシ。

(ニ) 其他ノ制度

一九〇一年バーゼル市ニ行ハレタル制度、一九〇二年ヴェニスノ制度、一九〇四年ジエネバノ制度等アレトモ皆失敗ニ歸シタリ。

(三) 勞働者團體ニヨル失業保險

最初ハ同盟罷工ノ際勞働者ニ保護ヲ與ヘン事ヲ目的トシ次第ニ失業保險トナリタルモノニシテ職工組合等ノ自ラ組織スル處トス。是

種ノ團體所屬ノ労働者ハ總テ本保險ニ加入スルノ義務アルハ勿論ナレトモ其團體ニ加入スヘキヤ否ヤハ任意ナリ。

(イ)一九〇一年セントニ行ハレタル補助組織

本制度ハ其後多數ノ都市ニ於テ模倣セラレタリ。其本質トモ稱スヘキハ労働者團體カ其所屬員中ノ失業者ニ保險ヲ與ヘントスル場合ニハ市町村ヨリ補助ヲ受クルニアリ。白耳義、佛蘭西、英吉利、和蘭、ルクセンブルグ、諾威、丁抹、伊太利及ヒ獨逸等ノ諸國ニ行ハレ殊ニ獨逸ニ於テ一九〇七年ストラスブルグニ、一九〇九年エルランゲン及ヒミュニルハウゼンニ、一九一〇年ニハフライブルグニ施行セラレタリ。補助金ノ與ヘラル、團體ハ國ニヨリテ一樣ナラス。或ハ職業組合ニ限ラル、事アリ。或ハ其他ノ金庫ニモ及フ事アリ。和蘭ニ於テハ失業金庫ノ自治認メラレ丁抹及ヒ諾威ニ於テハ更ニ失業金庫ヲ以テ獨立ノ

權利主體ナリト看做サレントス。補助金ハ或ハ金庫ニ與ヘラルヘク又直接ニ失業者ニ支給セラル、事モアリ。而シテ其分配ノ標準ハ各國ニヨリテ異ル事亦敍説スルヲ俟タサルヘシ。セント市ニ於テハ失業者ハ労働者組合ヨリ支給セラルヘキ金額ノ五割ヲ補助セラル。

(ロ)上述ノ組織ニ於テハ保護ヲ受クヘキ労働者比較的地位高キ者ニ限ラレ團體ニ屬セサル労働者、一時的労働者等ハ其恩惠ニ浴スルニヨシナシ。サレハ是等ノ失業労働者ノ爲メニ救助手段ヲ講シタリ。而シテ其方法ヲ見ルニ保險制度ヲ採用セルモノナク皆貧民救濟ノ一種ニ屬セサルナシ。就中バルレッツ氏ノ創案ニ係リ一九〇〇年セント市ニ施行セラレタル「コムピナチオン」制度ハ推奨スルニ足ルヘシ。此制度ニ於テハ組合ニ屬セサル労働者ハ一定ノ貯金ヲ爲ス時ハ補助金ヲ支給セラル、ノ資格ヲ有スヘシ。換言スレハ此種労働者ニシテ一ケ

月以上同市ニ居住シタル者ハ一年ニ六十日ヲ限度トシテ一日一法以内ヲ支給セラル。但シ自己妻及ヒ十二才以下ノ子ノ貯金帳ヲ示シ其貯金帳ヨリ少クトモ三ヶ月前ニ預金ヲ引下ケ爾來廢止セルヲ示スヲ要ス。

フライブルグ其他ノ諸市ニ於テモ同様ノ主義ニ基ク制度ヲ施行シタリ。

(四)獨逸國ニ於テハ更ニ市立強制失業保險ノ提案ヲ見タリ。殊ニ獨逸國民黨ノ強ク主張スル所ニ屬ス。

(五)更ニ現行労働保險ノ機關ヲ利用シテ失業保險ヲ施行スヘキ提案ハ屢々見ル處ナリ。就中ツアツヘル及ヒヘルクナー二氏ノ提案ハ之ヲ同業組合ニ結合セントスルモノニシテ最モ多數ノ同情ヲ有ス。之ニ反シフロイソド案ハ労働紹介ト失業保險トヲ結合セントセル點ニ於

テ其特徴ヲ見ルヘク亦一顧ノ價值ナシトセサルナリ。

(六)其他此種ノ施設中保險制度ニアラスシテ單ニ失業救済タルニ止マルモノ種種アレトモ茲ニハ敢テ論及スルノ要ナシ。

余ハ最後ニ簡單ニ左ノ一言ヲ讀者ニ呈シテ本節ヲ結ハント欲ス。曰ク過去ニ於ケル總テノ施設ハ單ニ最モ困難ナル保險問題ノ一部ニ不完全ナル解決ヲ與ヘタルニ留リ社會ノ下層ニ貧苦ト闘フ幾多ノ貧民ヲ向上セシムヘキ任務ハ未タ決シテ遂行セラレタルニアラス。吾人ハ更ニ幾多ノ難問ヲ解決スヘキ充分ノ覺悟ト熱心トヲ有セサルヘカラサルナリ。

第二節 其他ノ社會保險

國家ノ補助ノ下ニアリテハ必要ノ場合ニハ救済ヲ請求スヘキ法律

上ノ權利ヲ有スヘシトナス思想ハ既ニ諸國ニ普及セラレモノニシテ殊ニ現今ノ如ク社會政策ノ思想ノ高潮ニ達シ弱者保護ノ主張ハ多數政黨ノ綱領タルニ止マラス進ンテ一國政府ノ方針ヲナス時代ニアリテハ更ニ國家保險事業ヲ唱道スル者多キヲ加フルハ固ヨリ怪ムニ足ラサルヘシ。サレハ各派ノ政黨ハ殆ント同様ノ理由ニ基キ此輿論ニ順應セント努ムルカ故ニ斯クノ如クシテ諸種ノ保險制度設立ノ要求ハ今ヤ將ニアラルユル綱領ノ缺クヘカラサル一項目ヲナスニ至レリ。左ニ少シク其大様ヲ略述スヘシ。

(一) 手工業者保險設立ノ要求ハ一九〇二年ノ第三回獨逸手工業者會議ニ際シテ事實上始メテ主張セラレタリ。即チ此會議ニ於テ殆ント滿場一致ヲ以テ手工業者ニ對スル強制的老衰及ヒ廢疾保險ノ施行ヲ絶對ニ必要ナリトスル決議ヲ宣言シタリ。

茲ニ疑問トスヘキハ理論上及ヒ財政上不都合ノ點ナキヤ否ヤニアリ。蓋シ總テ手工業者ヲ強制保險ニ加入セシムル時ハ多數ノ獨立企業者モ亦保險系統ニ編入セラルヘシ。サレハ更ニ下層ノ多數階級所屬者カ國家ノ強制保險ヲ要求スヘキ同様ノ權利ヲ有ストナスモ固ヨリ正當ノ主張ナリトセサルヲ得ス。而シテ遂ニハ商人、農夫、美術家等モ亦彼等ノ輩ニ倣ヒテ各自其經濟的存在ノ保證ヲ要求スルニ至ルヘシ。

余ノ看ル處ヲ以テスレハ上述ノ手工業者保險ノ主張ニ對シテハ既ニ白耳義國ニ施行セラレタルカ如キ任意保險ヲ以テ最モ適當ノ施設ナリト信ス。而シテ保險關係者ノ掛金ニ加フルニ國家ヨリ相當ノ補助ヲ爲スヲ可トスヘシ。附帶保險制度ノ如キハ固ヨリ本問題解決ニ何等加フル處ナカラシ。

(二) 上掲ノ手工業者保險ニアリテハ老衰及ヒ癡疾保險ノ擴張完成ヲ期スルニアレトモ更ニ疾病保險ノ擴張ヲ企圖スル運動アリ。是レ妊娠保險 (Mutterschaftsversicherung) 松本博士ハ育兒保險ト譯セラレタリナル警語ヲ以テ知ラル、モノニシテ獨逸婦人運動者間ニ有力ナル支柱ヲ有スルモノトス。今其主張ヲ察スルニ現行帝國工場法ニ規定セラレタル保護方法ノ範圍ヲ擴張セントスルモノニ外ナラス。即チ一ハ被保險者ノ範圍ニ關シ殊ニ工場婦人労働者以外家内労働者下婢及ヒ婦人日傭農業者ニ及ホサントスルモノニシテ他ハ保險期間ノ擴張ニ關ス。而シテ帝國労働保險法ハ實ニ此主張ノ一部ヲ採用シタリ。

此妊娠保險ハ單ニ上述ノ如キ疾病保險ノ擴張ニ止マラス更ニ母タルモノヲシテ失業ノ期間ヲ當該義務ニ貢獻セシメンカ爲メ一定給付以外ニ賃銀不足額ノ填補ヲ期セントス。本保險ハ非獨立ノ婦人ニ對

シテハ強制的トシ獨立セル婦人ニハ一定收入ノ者ヲ限度トシテ任意加入ヲ許容セントス。詳細ノ點ニ於テハ更ニ異見ノ紛糾スルヲ見ルナリ。然レトモ帝國労働保險法ニ任意加入ヲ許サレタル妊婦及ヒ産婦保險ニシテ之ヲ義務的ノモノタラシメンカ本保險ノ目的ハ既ニ大部分遂行セラレタルモノニ外ナラスヤ。更ニ外國ノ立法例ヲ考フルニ伊太利ニ於テハ疾病保險ナキカ故ニ一九一二年ニ到リ妊娠保險ニ關スル法律ヲ見瑞典ニ於テモ亦一九一一年同様ノ草案現ハレタリ。

第三節 結論

抑モ労働者保護ニ關スル立法ハ濫リニ急激早尙ノ擴張ヲ爲スヘカラス。我社會的強制保險ノ如キ殊ニ然リ。蓋シ企業家ハ其資本ヲ懷イテ外國ニ赴クノ勢ヲ馴致スルノ虞アレハナリ。サレハ社會政策的

立法家タル者ハ充分ナル技能ト明敏ナル心理上ノ洞察トヲ以テ事ニ當ルヲ要スヘク勞働者ヲ憐ムノ餘リ人格ノ意義ヲ輕視シ或ハ企業家活動ノ地ヲ奪ヒ企業心ヲ枯涸セシメ遂ニハ徒ニ對外投資ノ弊ヲ惹起スルカ如キハ正ニ留意セサルヘカラサル所トス。

更ニ他ノ一面ニ於テ立法者ハ社會保險ヲシテ常規ヲ逸スルノ弊ナカラシメンカ爲メ充分ニ勞働者ノ心理ヲ研究セサルヘカラス。スチールゾムロ氏ハ問フテ曰ク國家ノ強制ハ果シテ人ノ獨創心ヲ破壊スル事ナキヤ。自助獨行ノ精神ヲ毀フ事ナキヤ。殊ニ特定階級ノ人々ヲモ本組織中ニ加入セシムル事ニ於テ及ヒ金錢的現物的特ニ醫療上ノ給付ニ對スル適當ナル評價ヲ失セシムルノ點ニ於テ最モ戰慄スヘキ弊害ヲ生スルノ虞ナキヤ否ヤト。是レ誠ニ最モ困難ナル根本問題ト稱スヘシ。蓋シ勞働者ニシテ一度獨力ヲ以テ生活ノ資料ヲ贏得

スヘキ必要ヨリ免レンカ其義務ノ自覺ト職業ニ對スル誠實トハ頓ニ喪失スヘキ事固ヨリ見易キノ理ナリ。今社會政策ノ目的ヲ遂行セントセハ一般國民ノ自覺ト身心ノ充分ナル活動トヲ必要トナス事異論ナキカ故ニ上掲ノ如キ怠惰ト無責任トハ極力之ヲ排斥スルニ努メサルヘカラス。

帝國社會保險擴張運動ニ對スル國家行政ノ立場ニツキテハ國務卿ボザドウススキー伯ハ一九〇五年春次ノ如キ説明ヲナセセリ。獨立不能ナルカ又ハ獨立者タルヘキ望ミ少キ階級ニ對スル我社會政策的立法ハ正ニ獨逸國民ノ遂行シタル一大功蹟ト稱スヘシト雖モ一面ニ於テ經濟生活ニ干涉セル跡モ甚タ大ナリシヲ知ルニ難カラス。而シテ其施設ノ未タ完全ナラサルハ發生以來日尙ホ淺キカ故ノミ。吾人ハ主義トシテ社會政策的立法カ我國國民生活上重要ナル福祉ヲ齎セル

ヲ疑ハサルナリ。此點ニ於テハ我獨逸國民ハ宇内ニ比類ナキ地步ヲ享有スルモノト謂フヘシ。然レトモ光明アル所又陰影ヲ伴フ。保險制度モ過度ニ擴張セラル、ニヨリテ或ハ多少ノ弊害ヲ惹起スル事ナシトセス。殊ニ勞働者間ノ氣根減衰シ奮起以テ自己ノ生存ヲ維持セントセス拱手シテ年金ヲ貪リ濫リニ安逸ヲ希フカ故ニ萬策ヲ弄シテ此救濟ヲ仰カント欲シ滔々相率キテ風ヲ爲スニ至ル。一國民心ニ及ホス此種ノ風潮ハ誠ニ寒心スヘキモノアリ。試ミニ諸子ニ問ハン。若シ獨逸ノ如キ一大帝國ニシテ絶エス保險部門ノ新設ヲ追求シ行カハ遂ニ保險セラレサルモノナキニ至ラスヤ。諸子或ハ曰ハン。實務ヨリ隱退シタル利子生活者ハ未タ保險セラレスト。然レトモ彼等ハ果シテ一國實力ノ消長ト關スル處アリヤ。獨立獨行以テ自ラ毅然タルヲ欲スルノ士ハ又自ラ將來ヲ慮ルノ計ヲ爲サ、ルヘカラス。而シ

テ更ニ自己企業ノ危險ヲ自ラ負擔スルノ自覺ヲ要スヘシ。若シ國家ノ保護ノ下ニ此危險ヲ減シ一國全體ノ負擔タラシメハ一國實力ノ根源ヲ奪フ事トナラサルナキヤ。余甚タ之ヲ憂フルモノナリト。

吾人若シ社會保險ナル建築物ヲ益々高カラシメ之ニ新シキ階ヲ重ね塔ヲ築カントシ現今社會保險ニ加入セル者ヨリ高キ地位ニアル階級ヲモ保險スルカ如キ制度ヲ設ケント欲センカ先ツ下ツテ基礎工事ノ完成ニ努メ暗黒ナル地下室ニ入りテ充分ナル改良ヲ施ササルヘカラス。徒ニヨリ高キ收入ヲ有スル新階級ノ保護ノミヲ叫フ勿レ。社會保險ノ真正ナル任務ハ救貧制度ノ根本的驅逐ニアルニアラスヤ。吾人ノ採ルヘキ道ハ下ニアリ上ニアラサルナリ。

將來吾社會保險ハ完成サレ又ハ改良サルヘキモ吾人ハ常ニ政治的見地ノミニ立ツ事ナク學理及ヒ純人道的立脚地ニ依ルヘキコト洵ニ

冀望ニ堪エサルナリ。若シ夫レ斯ノ如クナラハ多數ノ社會改良問題
ノ圓滿ナル解決ハ期シテ待ツヘキノミ。(完)

勞働保險論 終

勞働保險論

定價金壹圓四拾錢

大正八年一月十五日印刷

大正八年一月二十日發行

翻譯者 青木節一

翻譯者 小島精一

發行者 加治木武助

東京市牛込區南榎町七十二番地

印刷者 渡邊市太郎

東京市神田區中猿樂町十七番地

發行所 東京市牛込區南榎町七十二番地
振替口座東京三六六九四番 集 成 社

362
87

5

終

